

# NEWS LETTER

No.



2005  
SEPTEMBER

# リウマチ

Newsletter of Japan College of Rheumatology



有限責任中間法人

日本リウマチ学会



非ステロイド性消炎・鎮痛剤

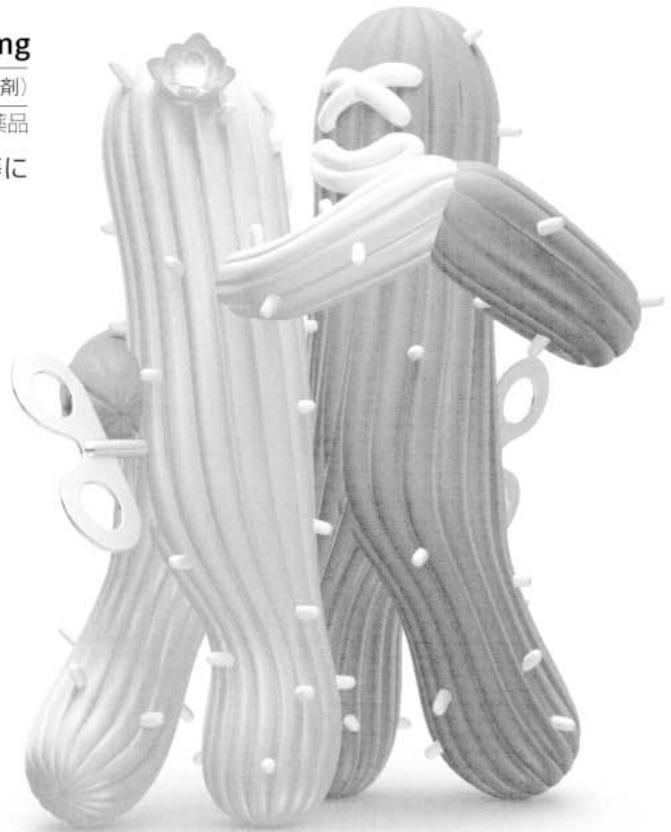
薬価基準収載

**モービック**®錠 5mg・10mg

Mobic® Tablets 5mg・10mg (メロキシカム製剤)

劇薬/指定医薬品

※効能・効果、用法・用量、禁忌および使用上の注意等については添付文書等をご参照ください。



販売元



**第一製薬株式会社**

資料請求先  
〒103-8234 東京都中央区日本橋三丁目14番10号  
ホームページアドレス  
<http://www.daiichipharm.co.jp/>



Boehringer  
Ingelheim

製造販売元

日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社  
東京都千代田区猿樂町2丁目8番8号

127X180 E05

体外診断用医薬品

リウマチの新しい見方

マトリックスメタロプロテイナーゼ-3

**MMP-3**

関節滑膜の活動性把握に血清又は血漿MMP-3

血清又は血漿  
**MMP-3**

関節滑膜の増殖

X線写真  
骨の破壊

リウマトイド因子  
抗ガラクトース欠損IgG抗体等

免疫学的異常

CRP、赤沈等  
全身の炎症

健保適用

**パナクリア® MMP-3 「ラテックス」**

血清又は血漿中マトリックスメタロプロテイナーゼ-3測定用

販売元



**第一化学薬品株式会社**

〒103-0027 東京都中央区日本橋三丁目13番5号

製造販売元



**第一ファインケミカル株式会社**



鎌谷 直之

東京女子医科大学附属  
膠原病リウマチ痛風センター  
所長

## 分子標的創薬の限界

医学生物学における分子生物学の威力は疑いようもない。薬物開発のほとんどの標的は分子になった。以前の薬物開発の標的は症状であり、関節リウマチの最初の薬は、痛みという「症状」を標的にした鎮痛剤であった。続いて、関節リウマチという「疾患」を対象とした、抗リウマチ薬ができた。引き続き抗炎症薬、免疫抑制薬が出たが、これらは「機能」を標的にしたものである。しかし、最近の薬物はすべて「分子」を標的にしたものである。例えばレフルノミドの標的は、ジヒドロオロト酸還元酵素という分子であり、インフリキシマブやエタネルセプトの標的はTNFという分子である。薬物の標的がすべて分子になった理由は明白である。もともと化合物の標的は分子だからである。しかも分子の立体構造の解析により、薬物と分子の結合を誰でも見ることができる。

薬物治療の対象が分子であることは明らかである。しかし、薬物の標的は分子かもしれないが、医療の目的は分子ではない。医療の目的は、個人であり、個人の持つ「症状」や「疾患」なのである。分子だけの研究には限界がある。ここに、分子ではなく、個人レベルで薬物や治療を評価するシステムである疫学や統計の重要性が増大してきた理由がある。最近では化合物を合成したり、特定の分子に結合する（あるいは結合を邪魔する）化合物を探す作業は既にコンピュータ化されている。しかし、その化合物を個人に投与した時の反応を調べるシステムはコンピュータ化できない。実際に投与して、その反応を示す観察データを統計学を使って解析するしか方法は無い（即ちEBM）。これから、ここに個人の遺伝子配列がからんでくる（即ち個別化医療）。

私はこれから医学生物学において、分子生物学と統計学の戦争が起きると予測している。例えば、Vioxxの(CoxII阻害薬)発売中止の問題はその戦争が重大なものであることを示している。分子生物学研究の賜物として、COXII阻害薬が作成された。しかし、副作用調査という疫学統計学により敗れた。心配なのは、その分子生物学と統計学の戦争における日本の体制である。日本分子生物学会の会員数12,115人に対し、日本統計学会の会員数は1,546人である（約10分の1）。これに対し、米国には分子生物学会という学会は存在せず、米国生化学分子生物学会の会員数は11,901人である。これに対し、米国統計学会の会員数はそれよりはるかに多い、17,000人以上である。これは、これからの医学生物学における日本の脆弱性の一面を示すものであると考える。

# 第50回(中)日本リウマチ学会総会・学術集会 第15回国際リウマチシンポジウム



## JCR 2006

会期:2006年4月23日(日)～26日(水)

会場:長崎ブリックホール、長崎新聞文化ホール、  
NCC & スタジオ、ウェルシティ長崎、長崎県医師会館、  
ベストウェスタンプレミアホテル長崎(旧長崎プリンスホテル)



第50回(中)日本リウマチ学会総会・学術集会  
第15回国際リウマチシンポジウム  
会長 江口 勝美

(中)日本リウマチ学会会員の皆様におかれましては、日々診療および研究にご活躍のこととお慶び申し上げます。

この度、私共は第50回(中)日本リウマチ学会総会・学術集会および第15回国際リウマチシンポジウムを2006年4月23日(日)から26日(水)まで、長崎ブリックホールを主会場として開催させていただくことになりました。

日本リウマチ学会は、1957年、三沢敬義先生が東京で第1回本学会を開催されて以来、50周年という節目を迎えることとなります。

リウマチ治療は抗サイトカイン療法が導入され、大変革の時を迎えています。本療法によって、関節炎や日常生活動作が改善されるだけでなく、関節破壊の進行を阻止あるいは破壊関節を修復することができるようになりました。また、TNF阻害薬の早期RA患者への投与は関節破壊の進行を阻止するだけでなく、寛解へ導くことを可能にし、治癒を目指すことも夢ではなくなりつつあります。

これらの理由から、本学会のテーマは「リウマチ学の半世

紀を鑑み、リウマチ治癒を目指す一蘭学発祥の地から世界へ」とさせていただきます。

この大変革の時期において、リウマチ医療をより一層前進させるためには「リウマチ専門医」の育成が最も重要な課題であることを認識しています。本学会はこれを叶えることができますように、プログラムを企画しました。

国際リウマチシンポジウムにおきましては、リウマチ学分野で最も重要な課題を5つ選び、国際的に超一流の先生方をお招きし、ご講演を承ることになっており、最先端の医学研究を聴講することができ、十分に満足していただけるものと確信しています。

また、(中)日本リウマチ学会(JCR)が50周年を迎えることを記念して、[1]フューチャードディスカッション(討論会)リウマチ学の半世紀を鑑み、若手リウマチ医に望むこと、[2]リウマチ学会半世紀の歩み(展示)、[3]長崎医学史とリウマチ(講演)、[4]長崎古写真展(展示)などを企画しています。

長崎は江戸時代から西洋文明の窓口として多くの偉人が往来し、出島を通じて広く全国に西洋文化が流布しました。医学も然りです。2007年には長崎大学医学部は奇しくもポンペ・フォン・メーデルフォールトが安政4年(1857年)、医学伝習所を設立して以来、開学150周年を迎えることになり、記念事業が企画されています。

また、長崎市では、2006年には鶴の港(長崎港)を跨ぐ女神大橋が完成し、出島の復元、長崎県立美術館や長崎歴史文化博物館の開館と続き、さるく博(さるく=散歩する)などのイベントも盛りだくさん企画されています。

西洋医学の窓口であった長崎の地で、過去半世紀のリウマチ学の歩みを知ると同時に、21世紀のリウマチ学の進む道を考えてみては如何でしょうか。

私共、先生方に稔りの多い有意義な学会にするために最大限の努力をさせていただきます。多くの先生方に本学会へ奮ってご参加いただけることを心待ちにしております。

## 第50回 (中) 日本リウマチ学会総会・学術集会 / 第15回国際リウマチシンポジウム

## 1. 会 期

2006年4月23日(日)～26日(水)

## 2. 会 場

長崎ブリックホール、長崎新聞文化ホール、NCC & スタジオ、  
ウェルシティ長崎、長崎県医師会館、ベストウェスタンプレミアホテル長崎(旧長崎プリンスホテル)

## 3. 会 長

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科病態解析・制御学講座(第一内科) 教授  
江口勝美

## 4. 学術集会事務局(連絡先)

〒852-8501 長崎市坂本1-7-1  
長崎大学大学院医歯薬学総合研究科病態解析・制御学講座(第一内科)  
川上 純  
TEL: 095-849-7260 or 7266 FAX: 095-849-7270  
E-mail: jcr50@ml.nagasaki-u.ac.jp

## 5. 運営事務局

株式会社コングレ九州支社 担当者: 吉原、山西  
〒810-0001 福岡市中央区天神1-9-17 ダヴィンチ福岡天神ビル5階  
TEL: 092-716-7116 FAX: 092-716-7143  
E-mail: jcr2006@congre.co.jp

## 6. 開催日程

4月23日(日)	8:00-16:30 19:00-	アニュアルコースレクチャー 会員懇親会(グラバー園)(オペラ蝶々夫人、龍踊り)
4月24日(月)	8:00-18:00 9:00-17:00 18:30-	第50回日本リウマチ学会総会・学術集会 第15回国際リウマチシンポジウム イブニングセミナー
4月25日(火)	8:00-18:00 9:00-17:00 18:30-	第50回日本リウマチ学会総会・学術集会 第15回国際リウマチシンポジウム イブニングセミナー
4月26日(水)	8:00-17:00 9:00-12:00 14:00-17:00	第50回日本リウマチ学会総会・学術集会 第15回国際リウマチシンポジウム 市民公開講座

7. 参加登録費: アニュアルコースレクチャー 5,000円  
 学会参加費 15,000円  
 会員懇親会(事前予約) 5,000円  
 懇親会参加事前予約はJCR2006ホームページをご確認下さい。

## 8. 演題募集要項

募集演題: ワークショップ(一般口演)  
 ポスター  
 一般演題にご応募いただいた演題より、シンポジウム演題に12題が選出されます。  
 演題応募方法: オンライン登録のみの受付となります。  
 詳細はJCR2006ホームページをご確認下さい。  
 URL: <http://www.congre.co.jp/jcr2006/>  
 登録期間: 2005年9月28日(水)正午～10月27日(木)正午

# 第50回(中)日本リウマチ学会総会・学術集会／第15回国際リウマチ

## 第50回(中)日本リウマチ学会総会・学術集会プログラム・抄録選定委員会

### 第50回(中)日本リウマチ学会総会・学術集会プログラム委員会

委員長	宮坂信之	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科膠原病・リウマチ内科学分野
副委員長	田中良哉	産業医科大学医学部第一内科学講座
	高柳 広	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科分子細胞機能学
	石黒直樹	名古屋大学大学院医学系研究科整形外科
委員	猪熊茂子	東京都立駒込病院アレルギー膠原病科
	岩本幸英	九州大学大学院医学研究院整形外科学
	加藤智啓	聖マリアンナ医科大学難病治療研究センター臨床遺伝部門
	川合眞一	東邦大学医学部付属大森病院膠原病科
	小池隆夫	北海道大学大学院医学研究科病態内科学講座・第二内科
	小安重夫	慶応義塾大学医学部微生物学・免疫学
	近藤啓文	北里大学医学部膠原病・リウマチ・感染内科学教室
	佐藤伸一	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科病態解析・制御学講座皮膚病態学
	佐野 統	兵庫医科大学リウマチ・膠原病科
	進藤裕幸	長崎大学大学院発生分化機能再建学講座構造病態整形外科学
	住田孝之	筑波大学大学院人間総合科学研究科先端応用医学専攻臨床免疫学
	武井修治	鹿児島大学医学部保健学科看護学専攻母性・小児看護学講座
	竹内 勤	埼玉医科大学総合医療センターリウマチ・膠原病内科
	中村耕三	東京大学大学院医学系研究科感覚・運動機能医学(整形外科学)
	中村利孝	産業医科大学整形外科学教室
	能勢真人	愛媛大学医学部病因・病態学ゲノム病理学分野
	三森経世	京都大学大学院医学研究科内科学講座臨床免疫学
	山本一彦	東京大学医学部アレルギーリウマチ内科
	吉川秀樹	大阪大学大学院医学系研究科器官制御外科学(旧整形外科学)
	龍順之助	日本大学医学部整形外科

### 抄録選定委員会 各領域の委員長

A 関節リウマチの病態-I	(田中良哉・産業医科大学)
B 関節リウマチの病態-II	(高柳 広・東京医科歯科大学)
C 関節リウマチの治療	(近藤啓文・北里大学)
D 関節リウマチの臨床	(川合眞一・東邦大学)
E 生物学的製剤	(宮坂信之・東京医科歯科大学)
F 自己免疫疾患(関節リウマチ以外)の病態-I	(小池隆夫・北海道大学)
G 自己免疫疾患(関節リウマチ以外)の病態-II	(住田孝之・筑波大学)
H 自己免疫疾患(関節リウマチ以外)の臨床-I	(竹内 勤・埼玉医科大学総合医療センター)
I 自己免疫疾患(関節リウマチ以外)の臨床-II	(佐藤伸一・長崎大学)
J 自己免疫疾患(関節リウマチ以外)の臨床-III	(佐野 統・兵庫医科大学)
K 自己免疫疾患の早期診断・新たな診断法の確立	(加藤智啓・聖マリアンナ医科大学難病治療研究センター)
L 自己抗体とリウマチ性疾患	(三森経世・京都大学)
M リウマチ性疾患の分子機構と遺伝子解析	(山本一彦・東京大学)
N 変形性関節症・脊椎病変	(中村耕三・東京大学)
O 手術療法-I	(石黒直樹・名古屋大学)
P 手術療法-II	(龍順之助・日本大学)
Q 骨粗鬆症の病態と治療	(中村利孝・産業医科大学)

R	リウマチ性疾患の QOL・リハビリテーション・療体制・病診連携	(吉川秀樹・大阪大学)
S	症例報告-I	(武井修二・鹿児島大学)
T	症例報告-II	(猪熊茂子・都立駒込病院)
U	症例報告-III	(進藤裕幸・長崎大学)

## 国際リウマチシンポジウム

### 4月24日(月)

午 前：Surgery in rheumatoid arthritis: Present status and future perspective

Chairman ; Yukihide Iwamoto, Ryota Teshima

Speakers ; Berbard F. Morrey, Clifford W. Colwell, Jr., Myung-Chul Yoo, Toshiaki Miyahara,  
Akio Minami, Kazuo Yonenobu

午 後：New horizon in treatment of rheumatoid arthritis

Chairman ; Nobuyuki Miyasaka, Josef S. Smolen

Speakers ; Josef S. Smolen, Wayne H. Tsuji, Dr.h.c.Joachim R. Kalden, Norihiro Nishimoto

### 4月25日(火)

午 前：Rheumatoid arthritis: Early diagnosis & prediction of joint destruction

Chairman ; Ferdinand C. Breedveld, Paul Emery

Speakers ; Ferdinand C. Breedveld, Paul Emery, Paul J. Utz, Atsushi Kawakami,  
Hisashi Yamanaka

午 後：Molecular basis of bone destruction and regulation in rheumatic disease

Chairman ; Hiroshi Takayanagi, Josef Penninger

Speakers ; Josef Penninger, Steven R. Goldring, Daniel J. Cua, Toshihisa Komori,  
Akira Yamaguchi, Akihiko Yoshimura

### 4月26日(水)

午 前：Immunoregulation and autoimmune diseases

Chairman ; Shigeo Koyasu, Diane Mathis

Speakers ; Shigeo Koyasu, Ethan Shevach, Diane Mathis, George C. Tsokos,  
Shimon Sakaguchi, Shizuo Akira

## 第50回(中)日本リウマチ学会総会・学術集会特別企画

### 1. フューチャードディスカッション(討論会)

リウマチ学の半世紀を鑑み、若手リウマチ医に望むこと

司 会：小池隆夫、江口勝美

討論者：安倍 達、京極方久、笹月健彦、松井宣夫、山本一彦、龍順之助

### 2. 日本リウマチ学会半世紀の歩み(展示)

### 3. 長崎医学史とリウマチ(講演)

相川忠臣(長崎大学大学院医歯薬学総合研究科教授)

### 4. 長崎古写真展(展示)

江戸時代から明治にかけての古写真の展示



高柳 広

東京医科歯科大学大学院  
分子情報伝達学 教授  
APLAR副会長

## リウマチ学と骨免疫学

整形外科の臨床医であった私が、関節リウマチの基礎研究の世界に足を踏み入れたのは1996年頃のことでした。臨床の傍らで研究を始める場合、まずは入手しやすいサンプルを用いて研究を始めることが多く、内科医が血液、整形外科は滑膜と骨というのが通例でした。自ずと対象となる病態も免疫異常と滑膜炎・骨破壊という異った観点に偏らざるをえません。この免疫と骨の壁は想像以上に厚いものでした。「骨破壊をきたす自己免疫疾患」という関節リウマチの病態を考えると、骨と免疫の関係を解き明かすことは必然であるにもかかわらず、リウマチ学会のセッションを見ても、だいたいどちらかに二分されていて交流が少ないように感じられました。実際には、骨を吸収する破骨細胞のような多核巨大細胞が骨破壊部に見られるという報告は1980年代はじめごろから散見され、この重要性に注目した先駆的な報告もありましたが、1996年当事のリウマチ学会での位置付けはそれほど大きなものではありませんでした。

この流れが変わってきたのは、1998年の破骨細胞分化因子（RANKL）の発見が大きなきっかけとなりました。関節リウマチ滑膜でのRANKLの過剰発現が報告され、RANKL阻害タンパクであるオステオプロテジェリン（OPG）が骨破壊に有効であることが明らかになったことで、破骨細胞のリウマチ治療における重要性がクローズアップされたのです。臨床的にも、免疫系だけを標的とした抗リウマチ薬で治療を続けても、骨破壊を予防できないことへの反省から、今後の抗リウマチ治療は骨破壊への効果を指標にして選ばなければならない時代に突入していました。まさに、骨と免疫を結びつける骨免疫学という領域が本格的に始まるための、機が熟していたと言っても過言ではないかもしれません。

2000年に、私たちはTリンパ球がRANKLとインターフェロン $\gamma$ を用いて破骨細胞を制御するしくみを解明し、Nature誌はこの研究をOsteoimmunology（骨免疫学）と位置付け、新しい分野として認知されるようになったのです。その後、骨と免疫がサイトカイン、転写因子、免疫受容体といったさまざまな分子を共有して複雑な相互作用の中で生体恒常性を保っており、片方の破綻が他方の病態に影響を与えることが明らかになり、骨免疫学の重要性がますます高まってきました。また、TNF- $\alpha$ を標的とする生物学的製剤や抗リウマチ薬の骨破壊抑制機序に破骨細胞が関わることも解明され、リウマチ治療薬の評価においても重要な知見を提供するようになってきています。

2006年には、ギリシャで第1回世界骨免疫学会議の開催が計画されており（詳細は<http://www.aegeanconferences.org/>の1st International Conference on Osteoimmunologyのコーナーを参照）、新世代の医生物学の一分野として確立されていくことが期待されています。骨免疫学は免疫学の成果を骨代謝領域に応用する段階から、他の関連の基礎研究領域や膠原病や運動器疾患の臨床領域に対して新たなコンセプトを提示する新しい段階に発展しつつあります。今後は、関節リウマチの治療に携わる臨床医だけでなく、免疫学や骨代謝学などを専門とする研究者や関連する臨床医学研究をしている研究者にとっても、骨免疫学的な視点はますます重要になっていくでしょう。

都道府県別会員数等一覧表

2005年8月15日現在

支部・都道府県	正会員					専門医区分別会員数		購読会員	県支部計	うち	
	通常	名誉	功労	評議員	合計	専門医	指導医			海外在住	教育施設数
北海道	290	0	0	22	312	135	13	1	313	2	11
青森県	46	0	1	7	54	12	3	0	54	0	3
岩手県	63	0	2	6	71	30	5	0	71	0	2
宮城県	87	0	2	16	105	46	12	0	105	0	5
秋田県	53	0	1	6	60	25	2	0	60	0	3
山形県	61	0	1	4	66	20	3	0	66	1	2
福島県	120	1	0	14	135	45	11	1	136	1	9
北海道・東北支部	720	1	7	75	803	313	49	2	805	4	35
茨城県	98	0	0	8	106	37	4	3	109	2	5
栃木県	108	0	3	8	119	41	2	3	122	3	3
群馬県	127	0	0	5	132	46	5	1	133	1	8
埼玉県	247	0	1	21	269	110	13	3	272	0	13
千葉県	256	1	2	22	281	131	15	0	281	4	7
東京都	1,126	11	26	147	1,310	507	107	59	1,369	10	39
神奈川県	503	2	11	58	574	228	45	8	582	8	32
関東支部	2,465	14	43	269	2,791	1,100	191	77	2,868	28	107
新潟県	78	0	0	15	93	38	12	0	93	0	4
富山県	104	0	1	3	108	33	4	1	109	1	3
石川県	96	0	0	8	104	33	5	0	104	0	4
福井県	75	0	1	3	79	27	1	0	79	0	4
山梨県	57	0	0	3	60	28	1	0	60	0	1
長野県	152	0	1	7	160	51	5	1	161	3	7
岐阜県	134	0	0	6	140	51	5	0	140	3	5
静岡県	186	0	1	14	201	90	10	0	201	0	14
愛知県	403	2	4	36	445	161	24	4	449	4	24
三重県	79	0	0	3	82	43	1	0	82	1	3
中部支部	1,364	2	8	98	1,472	555	68	6	1,478	12	69
滋賀県	68	0	0	7	75	29	5	0	75	0	1
京都府	213	2	1	16	232	69	7	2	234	0	5
大阪府	549	1	5	37	592	257	23	18	610	4	33
兵庫県	421	1	7	30	459	189	20	1	460	2	17
奈良県	90	0	0	7	97	40	3	0	97	0	3
和歌山県	52	0	0	4	56	17	3	0	56	0	1
近畿支部	1,393	4	13	101	1,511	601	61	21	1,532	6	60
鳥取県	52	0	1	4	57	17	3	0	57	0	3
島根県	38	1	0	4	43	17	2	0	43	0	2
岡山県	204	1	1	17	223	75	6	0	223	3	11
広島県	162	0	0	17	179	63	7	1	180	2	9
山口県	75	0	0	6	81	28	4	0	81	1	4
徳島県	65	0	0	7	72	20	2	0	72	1	2
香川県	73	0	0	11	84	35	6	0	84	1	3
愛媛県	114	0	1	16	131	55	8	1	132	1	5
高知県	69	0	0	9	78	24	1	0	78	0	3
中国・四国支部	852	2	3	91	948	334	39	2	950	9	42
福岡県	399	0	2	41	442	103	19	1	443	6	13
佐賀県	44	0	0	6	50	26	2	1	51	1	2
長崎県	103	1	0	11	115	47	4	0	115	0	7
熊本県	184	0	2	17	203	60	7	0	203	0	10
大分県	121	1	0	13	135	43	6	1	136	2	4
宮崎県	82	0	0	7	89	42	4	0	89	0	4
鹿児島県	108	0	0	11	119	46	4	0	119	1	2
沖縄県	38	0	0	5	43	15	1	0	43	0	1
九州・沖縄支部	1,079	2	4	111	1,196	432	47	3	1,199	10	43
外国	8	0	0	0	8	0	0	0	8	8	
合計	7,881	25	78	745	8,729	3,335	455	111	8,840	77	356

## (中) 日本リウマチ学会支部学術集会 2005.9.15—2006.3.31

### 第15回 北海道・東北支部学術集会

開催日 2005.9.30 (金)  
2005.10.1 (土)

会場 仙台市情報産業プラザ「アエル」(仙台市)  
〒980-6105 仙台市青葉区中央1丁目3番1号  
Tel: 022-724-1200 Fax: 022-724-1210

会長 東北大学医学部 血液リウマチ膠原病内科 教授  
佐々木 毅

連絡先 東北大学医学部 血液・免疫科医局  
〒980-8574 宮城県仙台市青葉区星陵町1-1  
TEL: 022-717-7165 FAX: 022-717-7168

内容 主題テーマ:  
「新しい抗リウマチ剤」  
シンポジウム:  
「リウマチのトータルケア:地域連携医療の構築と経験」  
特別講演:  
「早老症の関節症状」  
桐蔭横浜大学 教授  
後藤 真  
「骨粗鬆症の姿勢と運動療法」  
秋田大学医学部 教授  
井樋榮二

### 第16回 関東支部学術集会

開催日 2005.12.10 (土) 9:00~18:00

会場 つくば国際会議場  
〒305-0032 茨城県つくば市竹園2-20-3  
TEL: 029 (861) 0001

会長 筑波大学大学院 人間総合科学研究科  
先端応用医学専攻臨床免疫学 教授  
住田孝之

参加費 3,000円

連絡先 〒305-8575 茨城県つくば市天王台1-1-1  
筑波大学大学院人間総合科学研究科  
先端応用医学専攻臨床免疫学  
松本 功〔事務局〕、辻 奈津子〔秘書〕  
TEL: 029 (853) 3221 / FAX: 029 (853) 3222  
E-mail: riumachi@md.tsukuba.ac.jp  
URL: <http://jcrkanto.umin.jp/>

演題募集 2005年 9月 1日~9月 30日

内容 テーマ:  
1) シンポジウム 1  
リウマチ性疾患における難治性病態の治療  
〔座長: 近藤啓文・猪熊茂子〕  
2) シンポジウム 2 免疫生物学からリウマチ学へ  
座長: 山本一彦・徳久剛史  
3) パネルディスカッション: 生物学的製剤の使い方  
座長: 宮坂信之、パネラー: 竹内 勤・田中良哉  
西本憲弘・横田俊平  
特別講演1:  
NKT細胞のトランスレーショナルリサーチ (仮題)  
谷口 克  
特別講演2:  
リウマチの脊椎外科: 最近のトピックス (仮題)  
戸山芳昭

### 第16回 中国・四国支部学術集会

開催日 2005.10.22 (土)

会場 高知城ホール  
〒780-0850  
高知県高知市丸ノ内2丁目1-10  
TEL: 088-822-2035 FAX: 088-822-2037

会長 高知大学医学部 内分泌代謝・腎臓内科学 教授  
橋本浩三

連絡先 〒783-8505  
高知県南国市岡豊町小蓮  
高知大学医学部 内分泌代謝・腎臓内科学  
公文義雄  
TEL: 088-880-2343 FAX: 088-880-2344  
E-mail: 2naika@med.kochi-u.ac.jp  
URL: <http://www.ra-chushi.i-tosa.com/>

演題募集 平成17年8月12日 (金) まで

参加費 ¥3,000

内容 特別講演 1  
リウマチ・膠原病の治療の新展開 —生物学的製剤によりブレイクスルーできるか—  
産業医科大学 第一内科学講座 教授  
田中良哉  
ランチョンセミナー  
骨代謝マーカーにおける最近の動向  
大阪市立大学大学院医学研究科 老年内科学 助教授  
三木隆己  
特別講演 2  
膠原病における免疫抑制薬の治療戦略  
藤田保健衛生大学 リウマチ感染症内科 教授  
吉田俊治

### 第30回 九州・沖縄支部学術集会(九州リウマチ学会)

開催日 2005.9.17 (土) -2005.9.18 (日)

会場 かがしま県民交流センター  
鹿児島市山下町14-50  
Tel. 099-221-6600

会長 鹿児島大学大学院 運動機能修復学講座整形外科 教授  
小宮節郎

連絡先 <学会事務>  
〒890-8520 鹿児島市桜ヶ丘8-35-1  
鹿児島大学大学院  
運動機能修復学講座整形外科  
林 協司  
Tel: 099-275-5381 Fax: 099-265-4699  
E-mail: kyoji@m3.kufm.kagoshima-u.ac.jp  
URL: <http://www.congre.co.jp/jcr30kyushu/>

### 第31回 九州・沖縄支部学術集会(九州リウマチ学会)

開催日 2006.3.4 (土) -2006.3.5 (日)

会場 ホテルプラザ 宮崎  
〒880-0866  
宮崎市川原町1番1号 (大淀河畔橋公園)  
TEL: 0985-27-1111  
FAX: 0985-27-2729  
TELEX: 7779-77

会長 宮崎大学医学部 整形外科 教授  
帖佐悦男

## 指導医・専門医の認定更新に関するお知らせ

(中)日本リウマチ学会の指導医および専門医の認定有効期間は、それぞれ5年と定められております。本年度(2005年度)の認定更新についてお知らせいたします。

### 記

1. 今回認定更新対象者の方は10月中旬に各人あて「資格維持申請書」をお送りします。
2. 申請書に必要事項を記入の上、更新費(指導医10,000円、専門医10,000円、指導医・専門医20,000円)を納入し12月末(必着)までに提出していただきます。
3. 専門医資格認定委員会、専門医制度委員会で審査の上、理事会の承認を得て、専門医手帳を3月中旬にお送りします。
4. 認定日は2006年3月1日といたします。
5. 今回の認定更新対象者は次の方々です。
  - (1) 指導医・2000年度(2001年3月1日認定者および更新者)  
 専門医・2000年度( 同 上 )  
 以上の方々は、全員です。
  - (2) 専門医・1999年度(2000年3月1日認定)以前の認定者で2005年3月1日更新の申請で「保留」とされた方

### (注記)

#### \* 専門医の資格更新について

##### [専門医の資格の維持及び更新]

日本リウマチ学会専門医としての資格を維持するには、有限責任中間法人日本リウマチ学会会員であり、専門医制度規則第6条第2項に示す有効期間の5年間に、総単位数として50単位以上を取得しなければならない。

なお、認定を受けてから有効期間(5年)経過後も取得した単位数が所定の50単位に満たないときの取り扱いは次による。

1. 認定更新の保留を申し出て、翌年度に再申請することができる。保留期間は1年とし保留期間中は専門医を呼称することはできない。(この間は「専門医」ではない。)  
 保留期間の1年が経過した後も、なお50単位が取得できない場合は専門医の資格を喪失する。  
 なお、資格喪失後、再度専門医になるためには、専門医資格認定試験を改めて受験し、合格しなければならない。
2. 海外留学または病気、出産等で単位の履修ができない特別の事情がある場合は、それを証明する書面を添えて認定更新の有効期間(5年)を留学等の期間だけ延長の申請をすることができる。  
 (認められた場合は、この間は「専門医」である。)  
 延長後の更新は、前号に準じて行う。

### 附則

1. この改正細則は、2005年度定時社員総会で承認を受け2005年6月1日から施行する。
2. この細則は、2006年3月1日から適用する。  
 但し、2006年2月末日までに65歳に達した者は2005年3月1日以後の第1回目の更新までは研修単位の取得を免除する。(第2回目の更新から研修単位の取得を要する。)

#### \* 更新終了後の専門医手帳の破棄について

専門医更新の際に提出された専門医手帳は手続きを終了し、新規の手帳を送付しました後は学会事務局で保管いたしますが、保管期間は1ヵ年とし1年経過後破棄いたします。なお、現在保管しておりますのは前回(2005年3月更新分)の手帳です。

ご必要な方は学会事務局までご連絡下さい。2006年3月末で破棄いたします。

(中)日本リウマチ学会  
 専門医資格認定委員会  
 専門医制度委員会

# INFORMATION

## 2005年度(中)日本リウマチ学会「教育施設」:第17次認定施設

2005年度のリウマチ教育施設にはつぎの41施設が認定されました。認定期間は2005年9月1日から2008年8月31日です。

都道府県名	認定番号	施設名	都道府県名	認定番号	施設名
北海道	432	独立行政法人国立病院機構西札幌病院	愛知県	453	愛知県厚生農業協同組合連合会加茂病院
岩手県	433	独立行政法人労働者健康福祉機構岩手労災病院	愛知県	454	独立行政法人国立病院機構東名古屋病院
岩手県	434	社団医療法人栃内病院	山梨県	455	山梨県立中央病院
岩手県	435	社会福祉法人恩賜財団済生会北上済生会病院	山梨県	456	市立甲府病院
宮城県	436	石巻赤十字病院	京都府	457	医療法人順和会京都下鴨病院
秋田県	437	特定医療法人明和会中通総合病院	大阪府	458	医療法人愛仁会千船病院
福島県	438	済生会川俣病院	大阪府	459	市立堺病院
福島県	439	医療法人辰星会 柞病院	兵庫県	460	鐘紡記念病院
山形県	440	山形県立中央病院	兵庫県	461	独立行政法人国立病院機構兵庫中央病院
千葉県	441	医療法人鉄蕉会亀田総合病院	兵庫県	462	医療法人社団松本会松本病院
千葉県	442	順天堂大学医学部附属順天堂浦安病院	島根県	463	松江赤十字病院
千葉県	443	総合病院国保旭中央病院	香川県	464	屋島総合病院
千葉県	444	千葉徳洲会病院	島根県	465	島根県立中央病院
東京都	445	青梅市立総合病院	山口県	466	総合病院山口赤十字病院
東京都	446	社会福祉法人児玉経堂病院	徳島県	467	医療法人美摩病院リウマチセンター
東京都	447	順天堂東京江東高令者医療センター	高知県	468	医療法人元湧会吉井病院
東京都	448	東京北部病院	福岡県	469	片井整形外科病院
東京都	449	町田市民病院	福岡県	470	国家公務員共済組合連合会浜の町病院
神奈川県	450	横浜市立みなと赤十字病院	福岡県	471	早良病院
富山県	451	富山県立中央病院	長崎県	472	医療法人尚整会菅整形外科病院
岐阜県	452	西美濃厚生病院			

## 2005年度(中)日本リウマチ学会「教育施設」:第14次資格更新施設

2005年度に認定された教育施設についてつぎの105施設がその資格を更新されました。認定期間は2005年9月1日から2008年8月31日です。

都道府県名	認定番号	施設名	都道府県名	認定番号	施設名
北海道	81	総合病院北見赤十字病院	東京都	89	国立成育医療センター
北海道	82	札幌医科大学附属病院	東京都	92	東京都立墨東病院
北海道	84	勤医協中央病院	東京都	111	東京慈恵会医科大学附属病院
北海道	88	市立札幌病院	東京都	187	河北総合病院
北海道	354	苫小牧市立総合病院	東京都	276	東邦大学医学部附属病院
秋田県	183	秋田大学医学部附属病院	東京都	277	東京厚生年金病院
秋田県	273	湖東総合病院	東京都	355	東邦大学医療センター大橋病院
宮城県	272	独立行政法人国立病院機構西多賀病院	千葉県	75	千葉県千葉リハビリテーションセンター
福島県	184	寿泉堂総合病院	埼玉県	85	さいたま赤十字病院
福島県	274	福島第一病院	埼玉県	186	さいたま市立病院
福島県	275	福島県厚生連塙厚生病院	埼玉県	358	医療法人関越病院

都道府県名	認定番号	施設名	都道府県名	認定番号	施設名
茨城県	231	株式会社日立製作所多賀総合病院リウマチ膠原病センター	大阪府	236	医療法人早石会早石病院
茨城県	356	社会福祉法人白十字会白十字総合病院	大阪府	237	大阪赤十字病院
群馬県	87	医療法人社団 三思会東邦病院	大阪府	284	大阪府済生会中津病院
群馬県	90	前橋赤十字病院	大阪府	285	財団法人田附興風会医学研究所北野病院
群馬県	185	群馬大学医学部附属病院	大阪府	286	医療法人相愛会相原第二病院
群馬県	232	財団法人老年病研究所附属病院	大阪府	288	近畿大学医学部堺病院
群馬県	357	医療法人社団東郷会恵愛堂病院	大阪府	289	日野病院
神奈川県	94	昭和大学藤が丘病院	大阪府	370	特定医療法人きつこう会多根総合病院
神奈川県	95	湯河原厚生年金病院	大阪府	211	星ヶ丘厚生年金病院
神奈川県	189	湘南鎌倉総合病院	奈良県	371	医療法人ひのうえ会樋上病院
神奈川県	360	国家公務員共済組合連合会横浜栄共済病院	兵庫県	238	姫路赤十字病院
神奈川県	362	昭和大学藤が丘リハビリテーション病院	兵庫県	372	医療法人社団新日鐵広畑病院
神奈川県	363	社会福祉法人聖テレジア会総合病院聖ヨゼフ病院	兵庫県	375	松原メイフラワー病院
神奈川県	364	聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院	和歌山県	108	和歌山県立医科大学附属病院
静岡県	96	順天堂大学医学部附属順天堂静岡病院	岡山県	109	岡山大学医学部歯学部附属病院
静岡県	190	盤田市立総合病院	岡山県	290	倉敷市立児島市民病院
静岡県	192	総合病院聖隷浜松病院	岡山県	376	岡山赤十字病院
静岡県	279	総合病院聖隷三方原病院	岡山県	377	独立行政法人労働者健康福祉機構岡山労災病院
静岡県	366	静岡赤十字病院	広島県	196	尾道市立市民病院
静岡県	367	静岡リウマチ整形外科リハビリ病院	広島県	239	公立みつぎ総合病院
長野県	97	長野県厚生連篠ノ井総合病院	島根県	197	玉造厚生年金病院
新潟県	112	新潟県立瀬波病院	鳥取県	378	鳥取赤十字病院
新潟県	113	新潟大学医歯学総合病院	徳島県	379	徳島大学病院
新潟県	365	長岡赤十字病院	香川県	241	独立行政法人労働者健康福祉機構香川労災病院
富山県	194	富山医科薬科大学附属病院	香川県	291	医療法人財団博仁会キナシ大林病院
石川県	80	社団法人石川勤労者医療協会金沢リハビリテーション病院	愛媛県	292	医療法人社団慈生会松山城東病院
石川県	86	金沢医科大学病院	高知県	242	医療法人緑風会海里マリン病院
愛知県	103	J A 愛知厚生連安城更生病院	高知県	380	独立行政法人国立病院機構高知病院
愛知県	107	小牧市民病院	福岡県	78	福岡大学病院
愛知県	234	みなと医療生活協同組合協立総合病院	福岡県	198	宗像医師会病院
愛知県	280	医療法人明陽会成田記念病院	福岡県	199	福岡鳥飼病院
愛知県	281	豊川市民病院	福岡県	71	久留米大学病院
愛知県	282	公立陶生病院	福岡県	381	医療法人雪ノ聖母会聖マリア病院
愛知県	283	一宮市立市民病院	佐賀県	200	独立行政法人国立病院機構嬉野医療センター
愛知県	369	名古屋市総合リハビリテーションセンター	長崎県	294	日本赤十字社長崎原爆病院
三重県	83	鈴鹿中央総合病院	長崎県	295	健康保険諫早総合病院
福井県	110	福井総合病院	熊本県	91	熊本整形外科病院
岐阜県	193	岐阜大学医学部附属病院	熊本県	201	熊本市立熊本市市民病院
京都府	104	京都第二赤十字病院	熊本県	202	医療法人社団寿量会熊本機能病院
大阪府	56	独立行政法人労働者健康福祉機構大阪労災病院	熊本県	203	公立玉名中央病院
大阪府	102	医療法人行岡医学研究会行岡病院	沖縄県	382	豊見城中央病院
大阪府	105	大阪大学医学部附属病院			

# 委員会だより

## 2005年度第2回理事会報告

(中)日本リウマチ学会理事会 小池 隆夫 理事長

2005年度第2回(中)日本リウマチ学会理事会が7月1日(金)に開催され、理事長は新体制に伴う事業方針を示した。

## 情報化委員会報告

情報化委員会委員長 澤井 高志

2005年度第1回情報化委員会を5月31日に日本リウマチ学会事務局で開催し、業務の分析を行うと共に各担当委員を決定した。情報化委員会の業務と各担当委員(敬称略、順不同)

1. ニュースレター小委員会の委員は継続担当とした。  
ニュースレター小委員会:天野宏一、諏訪 昭、田中真希、中島亜矢子
2. 今年度の業務分担内容と担当は次のとおり。
  - 1) ホームページのチェック:高林克日己、坪井紀興、桃原茂樹
  - 2) メールマガジンのチェック:久我芳昭、竹内 勤、針谷正祥
  - 3) リウマチ学会TVのチェック:関 雅之、高林克日己、桃原茂樹  
・著作権、制作経費、有料化、財団のeラーニングとの競合是非、講演者の事前了解、講演料などの検討  
・教育研修のコンテンツに関しては生涯教育委員会と共同で取り組む
  - 4) 電子媒体での広告業務:久我芳昭、坪井紀興、桃原茂樹
  - 5) 英語版HPの開設と運用:益田郁子、関 雅之、針谷正祥  
・国際委員会と共同で取り組む
  - 6) リウマチ用語の電子データ化事業:中村 洋、関 雅之、高林克日己  
・医学用語委員会と共同で取り組む
  - 7) 学会のIT化と広報・マスコミ対応:久我芳昭、坪井紀興、中村 洋

## MR編集委員会報告

MR編集委員会委員長 三森経世 編集担当理事

Modern Rheumatology(MR)編集委員会は、今年8月末、MRにImpact Factor(IF)をつけるため、MRのMEDLINE収載をNational Library of Medicine(NLM)へ再申請した。審査対象の4冊(MR15-1~MR15-4)を先ず提出したが、MR15-5~MR15-6もそれぞれ発行後の10月と12月に後送される。審査は2006年2月に行われる予定。

委員会はこれより先の今年6月3日(金)に第140回編集会議(2005年度第1回編集委員会)を開催し、下記内容を審議した。

1. 新編集方針として、Peer Review Policyを明確にするために、Invited Review Articleや編集委員の綜説論文の場合にもreceivedとacceptedの日付を掲載し、他の編集委員2名による査読を実施する。
  2. 今年1月5日に編集委員会が採択した利益相反(conflict of interest)に関する新投稿規定の条項遵守を再確認した。
  3. 査読方法の新方針
    - ①投稿論文の査読者選定は、Associate EditorとSub-Editorが行い、今後は評議員以外の学会員と専門分野の非学会員にも査読者依頼の対象拡大を了承した。
    - ②Sub-Editorには整形外科分野から中村孝志教授が就任した。
    - ③第三レフェリー査読依頼の新基準を採択し、また査読判定基準は下記の明確な4段階表記の編集方針を決定した。
      - A. Accept without revision
      - B. Accept with minor revision
      - C. Accept with major revision
      - D. Reject
  4. Transmitting Editor制度導入案について  
IF取得後に再度検討することとなった。
- 尚、MR編集委員会の委員は次のとおり。(敬称略、順不同)  
委員長:三森経世(Editor-in-Chief)、副委員長:住田孝之(Associate Editor)、中村孝志(Sub-Editor)  
委員:石ヶ坪良明、織田弘美、金井芳之、高岸憲二、田中良哉、山中 寿、山村昌弘

## 教育施設認定委員会報告

教育施設認定委員会委員長 岩本 幸英 理事

2005年度第1回教育施設認定委員会を6月24日(金)に開催し、前委員会からの懸案事項であった、各県に所在する認定教育施設数のアンバランス解消の対策について協議を行った。

専門医育成の骨幹をなす教育施設の拡充のため、大学病院に協力要請を行い、また、教育施設として相応しい医療機関について支部代表理事に対し推薦を依頼した。

尚、教育施設委員会の委員は次のとおり。(敬称略、順不同)

- 委員長:岩本幸英、副委員長:横野博史  
委員:近藤正一、佐々木毅、塩澤俊一、宗園 聡、広畑俊成、福田孝昭、松本美富士、三浪明男、村澤 章、山本晴康

## JCR国際委員会報告

JCR国際委員会委員長 竹内 勤 理事

2005年度第1回国際委員会を7月1日(金)に開催し、下記の事案を審議・決定した。

1. JCRの英語版HP開設による対外情報発信を強化する。

2. JCR学会内に国際活動を支援するための基金設立を検討する。
  3. APLAR2006大会期間中にJCR sponsored symposiumを開催する。
  4. EULAR、ACR、ILARとの連帯については、組織としての協力関係を構築する。
  5. 第50回JCR総会・学術集会でも引き続きJCR国際奨学金で若手研究者を招聘する。
  6. 第51回学術集会から国際委員会もプログラム作成に関与する案を学会長に提示する。
- 尚、JCR国際委員会の委員は次のとおり。（敬称略、順不同）

委員長：竹内 勤、副委員長：横田俊平  
委員：石黒直樹、木村友厚、久保俊一、住田孝之、山中 寿、山本一彦

## 将来構想委員会報告

将来構想委員会委員長 龍 順之助 副理事長

2005年度第1回将来構想委員会を7月1日(金)に開催し、下記の事案を審議・決定した。

1. リウマチ学会のあり方について、開催地（東京、横浜、名古屋、大阪、福岡、札幌）を固定して年次ごとに開催することの是非を検討する。
2. プログラム内容や予算規模は、学会が主体で編成する方向で検討する。
3. 国際リウマチシンポジウムを年次学術集会と別開催する是非を検討する。
4. アニュアルレクチャーコースを学会と切り離し夏季と冬季のスペシャルセミナーとして専門医の教育、認定更新のための講習会として学会主導で設定する案を検討する。
5. リウマチ学会賞を他の各賞よりも最重要との位置づけ策を検討する。
6. 学術集会予算をリウマチ学会予算の一部として計上するか、別建てで計上すべきかその運用形態を考慮して良策を検討する。
7. 将来構想委員会として専門医（制度・資格認定）委員会に次の2案の検討を要請する。
  - 1) リウマチ財団が認めた「登録医単位認定研修講演」を自動的に専門医の単位として認めてきた慣習を廃止する案
  - 2) 専門医資格の更新のために必要な50単位の取得に関して、少なくとも30単位は、学会が認定した教育研修講演を受講していることの条件を追記する案
8. 学会独自の研修単位を明確にし認定教育研修講演を充実させる。

尚、将来構想委員会の委員は次のとおり。（敬称略、順不同）

委員長：龍順之助、副委員長：宮坂信之  
委員：石黒直樹、岩本幸英、尾崎承一、豊島良太、中村耕三、三森経世、森本幾夫、山本一彦

## 専門医制度委員会報告

専門医制度委員会委員長 田中 良哉 理事

2005年度第1回専門医制度委員会を7月1日(金)に開催し、下記の事案を審議し引き続き関連委員会と討議・検討を加え理事会に諮ることとなった。

1. 日本リウマチ学会専門医(以下、専門医)の更新必要単位数に関して、日本専門医認定機構の指導に基づき、「基本領域」25単位、「subspeciality領域」50単位の2階建制に準拠することが望ましいとした。しかし、多数回更新に必要な単位数、新規申請単位数(現行30単位)については、継続審議とした。また、地方・遠隔地の会員の単位獲得にも便宜を図る必要性が確認された。
2. 認定委員会と制度委員会の役割分担について、専門医制度委員会と専門医資格認定委員会の役割分担を明確にするために、「専門医制度規則第3章」を改定するよう、理事会に答申することとした。
3. 専門医資格維持施行細則の改定について、多方面から問題提起されているリウマチ専門医とこの研修単位の修得のあり方について見当を加え、これを解決するために「専門医資格維持施行細則」の改定を含め、理事会に答申することとした。
4. リウマチ学会独自の教育研修会の構築について、総会、並びに、地方会に連動(または非連動)して教育研修会、集中教育研修会を開催するよう、生涯教育委員会(尾崎承一委員長)に検討を要請することとした。
5. 専門医資格認定と研修の問題について、専門医資格認定試験合格率は98%を超えており(参照：日本内科学会認定医83~92%、同専門医68~81%)、「資格認定」にふさわしくないのではないかとこの意見があり、再検討する旨、専門医資格認定委員会(石黒直樹委員長)に検討を要請することとした。

\* 同時に、専門医研修カリキュラムの再構築の必要性が議論され、本委員会で作成した「専門医研修カリキュラム」に関して、今後は、生涯教育委員会(尾崎承一委員長)で、さらに継続議論、改定を依頼する旨、要請する事とした。

6. 専門医制度委員会としては以上を年間事業計画とし、本委員会承認事項から順次理事会へ答申し、来年の総会での承認、施行をめざすことと申し合わせた。

尚、専門医制度委員会の委員は次のとおり。（敬称略、順不同）

委員長：田中良哉、副委員長：石川 斉  
委員：石黒直樹、岩本幸英、竹内 勤、浜西千秋、尾崎承一、横田俊平

## エタネルセプトPMS委員会報告

エタネルセプトPMS委員会委員長 小池 隆夫 理事長

(中)日本リウマチ学会の抗リウマチ薬市販後特別調査委員会(略称：エタネルセプトPMS委員会)は、4月に発足以来、月1回のペースで開催されている。

第4回委員会を8月5日(金)に開催し、ワイス(株)と武田薬品工業(株)が実施しているエタネルセプト(商品名：エンブレル)の全例市販後調査の報告を検討した。

## 各支部だより

### 第15回 (中)日本リウマチ学会関東支部学術集会

会期：2004年12月4日(土)  
会場：大手町サンケイプラザホール

会長：東京女子医科大学膠原病リウマチ痛風センター 原まさ子

第15回 (中)日本リウマチ学会関東支部学術集会は平成16年12月4日(土)、大手町サンケイプラザホールにて行われた。参加人数は408名。特別講演2題、主題3題、ランチセミナー2題、一般演題48題で構成した。

特別講演1は竹内勤教授により「関節リウマチの最新の薬物治療」と題し、関節破壊の過程と活動性の評価、薬剤の選択と開始時期および有効性、安全性の評価について詳細に解説され、リウマチ治療の体系と今後の展望が明快に示された。特別講演2では勝呂徹教授が「RAにおける関節再建術の進歩」として、人工関節の進歩とその適応、手術のタイミング、今後の展開とコンピュータを活用した新しい手術法について、内科医にも興味深い講演をされた。

各主題は座長により第一線で活躍中の先生方で構成し、多くの聴衆の興味を集めた。

主題1：リウマチ性疾患における合併症の病態と治療では「慢性皮膚潰瘍の診断と治療」として膠原病に伴う難治性皮膚潰瘍の治療法を坪井良治先生から、三森明夫先生からは「膠原病におけるTTPの病態と治療」を各疾患別に、針谷正祥先生には「ステロイド療法中の膠原病患者における無菌性骨壊死の臨床的解析」の自験例を、猪熊茂子先生には「膠原病でみられる肺障害について」系統的に講演していただいた。

主題2：リウマチ性疾患にかかわる遺伝子とその臨床応用では浅原弘嗣先生より「クロマチンを介した発生学と関節再生医療」と題し関節発生分化を制御する転写因子の解析について講演して頂いた。山田亮先生は「SNPを用いた関節リウマチ関連遺伝子解析の現況」にて、関節リウマ

チ感受性遺伝子解析による複数遺伝子の相互作用や他疾患の感受性との共通遺伝子の存在を示唆した。野々村美紀先生の「細胞周期制御療法による関節リウマチ滑膜由来滑膜線維芽細胞(RSF)におけるMMP-3産生抑制機構の解析」は滑膜へ細胞周期を停止させる遺伝子を導入することによる治療の可能性を示唆した。山本愛一郎先生は「アデノウイルスベクターを用いた関節炎治療法の開発」として原癌遺伝子の抑制遺伝子を導入することにより滑膜増殖を抑制し骨破壊を抑制する可能性を示した。中島利博先生は「新規関節リウマチ病因遺伝子シノビオリンー滑膜細胞増殖における小胞体蛋白分解系の意義とその制御ー」としてシノビオリンの機能解析から滑膜増殖抑制の標的とする治療戦略を示した。

主題3：骨・軟骨・神経の代謝と再生では軟骨の再生に関して遊道和雄先生は「軟骨老化の発生機序と変形性関節症との関連」と題し、変性軟骨に発現する細胞老化制御因子Caveolin-1のOA病態形成への関与を、河崎賢三先生は「軟骨再生ー巨大な骨欠損を有する軟骨再生における光造形法の有用性」を、川村孝一郎先生は「間葉系幹細胞による軟骨再生の試みーGene Therapyによるアプローチー」を発表した。樋谷宏平先

#### 特別講演2 (勝呂徹教授)の資料

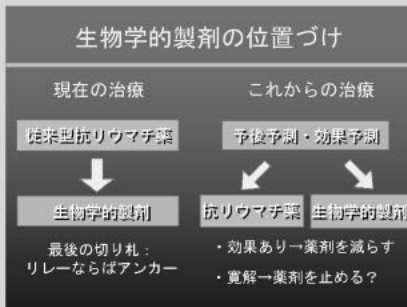
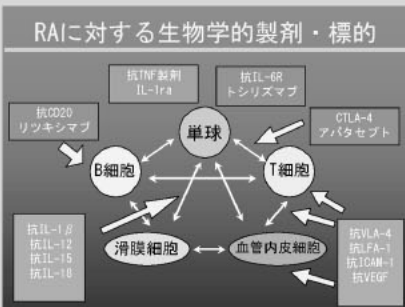


▲解剖学的で生理的な膝関節の運動が可能様にデザインされているSuper FINE TKA



▲肘関節の機能再建術に人工肘関節置換術がおこなわれ、機能回復が得られた。

#### 特別講演1 (竹内勤教授)の資料



生は「生体材料と細胞を用いた骨再生治療」として新しいシート材料を紹介した。中村雅也先生は「脊髄損傷に対する神経幹細胞移植法」について、森泰昌先生は「寿命延長骨髄間質細胞からの神経分化誘導」として骨髄間質細胞への遺伝子導入により細胞の寿命を延ばし、神経へ分化誘導することを発表した。

ランチョンセミナーでは田中良哉教授に「抗サイトカイン療法は関節リウマチ治療をブレイクスルーできるか」、高柳広教授に「炎症性骨破壊と破骨細胞の制御」をご講演いただき、いずれも満員の盛況であった。一般演題には臨床に役立つ貴重な症例が多数報告され、最後まで活発な討議が続き、活気ある学術集会だった。

## (中) 日本リウマチ学会九州・沖縄支部

九州リウマチ学会〔(中)日本リウマチ学会九州・沖縄支部〕は、現在会員数600名を超え、年2回の学術集会にはその半数以上が参加し、毎回活発な討論が行われています。全国にある日本リウマチ学会各支部の中でも年に2回学術集会を開催しているのは、この九州・沖縄支部だけであると聞いています。今春支部長体制も新しくなり、私が支部長、長澤浩平先生が副支部長に就任し、学会の発展、社会への貢献を目指した活動を展開しているところです。何卒よろしく願いいたします。

学術集会以外の学会活動としましては、これまでに「病診連携委員会」を立ち上げて、九州各地区のリウマチ専門医療機関におけるリウマチ患者さんに対し、無記名のアンケート調査を行いました。その結果、1回の通院費用は平均2,254円で、平均通院総所要時間が約4時間半と非常に長時間を通院に要していることや、約3割の患者さんが病診連携を望んでいることなどが明らかになり、リウマチ専門医療機関におけるリウマチ診療の問題点が明らかになりました。より良いリウマチ診療のあり方を探るべく努力しております。

(文責：支部長 岩本幸英)

また、九州リウマチ学会は機関誌として、年に2回、会誌「九州リウマチ」を発行しています。かなり古い歴史を持っており、現在24巻を数えています。一地方会としては異色ではないかと、私たちとしてはささやかな誇りでもあ

ります。学会で発表された演題を中心に投稿を受け付けていますが、もちろん学会発表とは関係ない論文も歓迎しています。論文の種類は症例報告が多いのですが、原著も必ずあり、3年前の改革で、総説とトピックスも各々1篇ずつ掲載することにしました。編集委員も決めて2名ずつによる査読もしっかり行っています。最近では、内科、整形外科のドクターに限らず、リハビリテーション部門や看護学部門からの投稿もふえてきました。

和文による症例報告の場が少なくなってきた今日、特に若い人たちにとって「九州リウマチ」はその場を提供できる雑誌ではないかと思っています。九州だけでなく、広く全国からの投稿を歓迎していますので、よろしくお願い致します。(文責：編集委員長、副支部長 長澤浩平)

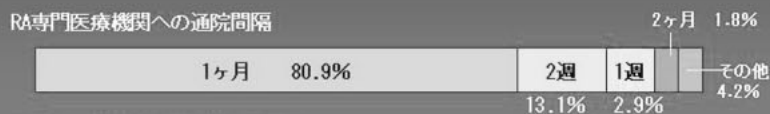
### 九州リウマチ学会「病診連携委員会」のアンケート調査結果

アンケート回収数 1002 / 1237名 (回収率78.7%)

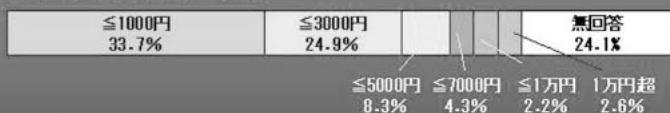
男性 150人 (15%) 女性 852人 (85%)

年齢 平均 60.0才 (19~86才)

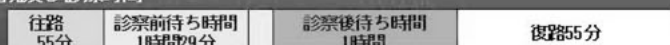
罹病期間 平均 14.1年 (1年以下~66年)



交通費 平均2254円 (0~5万円)



通院及び診療時間



時間9分診察

総所要時間4時間28分

## ILAR理事会報告



聖マリアンナ医科大学 教授  
難病治療研究センター長  
APLAR会長  
西岡 久寿樹

ILAR(国際リウマチ学会)の常任理事会に出席したAPLAR会長の西岡久寿樹教授から次のような報告が寄せられた。

次期会長(2007~2009)にオーストラリアのPeter Brooks氏が選出された。

ILAR常任理事会及び理事会が6月7日(火)ウィーンで開催され、次期ILAR会長にオーストラリアのDr.Peter Brooks(2007~2009)、Secretary Generalにペンシルバニア大学のDr. Joan VonFeldt、TreasurerにスペインのDr.Vincente

Rodriguezが選任された。

また、ILARの今後のmissionについて様々な議論が行われたが、結果的にはEULAR、APLARが独自の活発な活動を展開しており、ACRがPANLARに協力を始めたことにより、ILARのmissionは次のような方向性になると考えられる。

1. ILARのofficial Journal, Clinical Rheumatologyの充実を図ること
2. LIAISON事業として、WHOのbone and joint decadeと連携した様々な活動のより一層の充実
3. 財政の充実(ILAR自身が主宰する学術会議は行わない)

筆者はAPLARの会長という立場から、ILARの常任理事を務めているが、ILAR自身が財政基盤の確立も含めてより一層の機能の明確化を要求したい。

ILARに対しては未だにその機能がはっきりしていない。従って、APLARはEULARと協同歩調とる方向で、関与したいと考えている。

## EULAR大会参加報告

ANNUAL EUROPEAN CONGRESS OF RHEUMATOLOGY 8-11 June 2005 Austria Center Vienna Wien, Austria

### 2005 EULAR report

●天野 宏一 埼玉医科大学総合医療センターリウマチ膠原病内科

今回はじめてEULARに参加させて頂きました。国際学会は昨年のAPLARに次いで参加でしたが、盛り上がりの違いは歴然でした。全世界から10,000人近い参加があったらしいですが、会場も多く参加者であふれ、企業の展示ブースも大盛況でした(逆に、毎年参加されている先生にとっては、参加者が多すぎて例年より個々の参加者へのサービスが低下したという印象もあったようです)。学会2日目と3日目は15会場を使ってRA、OA、SLEなどの膠原病、骨粗鬆症関連、など臨床から基礎まで種々の演題が同時進行で開催されており、とうてい全体を把握できません。

私は内科系リウマチ医としてRAの治療(ほとんどBiologics)に関連したsessionのいくつかと、vasculitisのsessionに参加しました。EULARでは抗TNF製剤の臨床的有効性についてはもはや話題にはなっておらず、骨破壊抑制効果が盛んに各薬剤でアピールされており、「骨破壊」をいかに抑えるか、いかに多くの患者を「寛解」に導くかであることがこれからのRAの治療目標であることが確認されました。抗TNF製剤以外のBiologicsも注目されており、T細胞を標的としたCTLA4-Igのabataceptも、臨床効果発現はやや遅いが骨破壊進行抑制効果はあり期待できそうです。

B細胞を標的とした抗CD20抗体のRituximabも注目されており、抗TNF製剤無効例にも効く場合があること、2週間隔の2回の点滴投与のみで長期間有効で、効果が減弱しても18

ヶ月以内に再投与すれば効果が維持できるとのことです。その他Biologicsを始める前の対策として「latent TB」の診断をどうするか、抗TNF製剤無効例はどうするか、などが議論されていました。今後はBiologicsをいつまで続けるか(中止しても大丈夫か)、という問題もエビデンスが欲しいところです。

さて話題はかわって私からみたWienについて語りしたいと思います。なんと私にとってこれが初めてのヨーロッパでした。私はdouble bookingのおかげ(?)でWien大学のそばのHotel du Franceというホテルに宿泊することになりました。当初は見知らぬ土地でドイツ語もわからず大変あせりましたが、結果は「Bruckner Suite」でした。Wienといえば音楽の町ですが、地下鉄の駅のトイレ(有料トイレ)からMozartの曲が奏でられているのはさすがでした。中世?の古い町並みの雰囲気を残しながらも、決して古くさい感じはなく、思ったよ



▲ヴァッハウ渓谷にて

り派手さや、華やかさはなく、むしろ質素にすら感じられましたが、High Qualityな町という印象でした。特に女子大生のジーンズ姿は、同じ白人の若い女性のジーンズ姿でもAmericanの雰囲気とは全く違って、品がある感じがしました。2日目の夜はオペラ座で小沢征爾のオペラを見に行く機会を得ました。が、10ユーロの席だったので舞台がほとんどみえず、オペラ座の中の雰囲気を味わい、小沢入場の姿を見て席にいたら熟睡と相成りました。生の小沢の指揮による音楽をBGMにして寝るなんて、まさにウィーンは音楽の都だったのだな～。おかげでjet lagはすっかり消失し、3日目は朝8時からのsatellite sessionにすっきりした気分に参加できました。

最後の土曜日の午後に同僚の亀田先生とヴァッハウ渓谷まで足を運びました。途中列車の車窓からは一面の緑の田園風

景が広がり、正にBeethovenがこのような風景を頭に描きながら「田園」を作曲したのかな、と思いを馳せてしまいました。

Melk修道院は、建物自体も中の装飾もすばらしいの一言でした。またMelkやその帰りに寄ったKremsという小さな町では、建物が種々のバステル調の色に塗られているのですが、不思議に統一感が感じられ、歌舞伎町のネオンとは全く違うものでした。これは、最後にWien市内でみたHundertwasser Hausと同じ感覚でした。個々を強く主張しすぎる事なく、個性を出しながらも統一感を保つ、気品のある国、それがOsterreichという国の私の印象でした。これが私にとって初めてのヨーロッパだったなんて、本当に今までの人生を無駄に過ごしてきたなあ、と痛感しました。

来年もEULARにはぜひ参加してみたいと思っています。

\* \* \* \* \*

## 2005 EULARに参加して

●字月 美和 岩手医科大学病理学第一講座

このたび、オーストリアのウィーンで開催されたEULARに参加してまいりました。EULARに参加するのは今回が初めて、アメリカ以外の外国を訪れるのも初めて、ということでも楽しみにしておりました。今回は欲張って演題を2つ提出しましたが、幸い両方が受理され、一つはポスター、もう一つは口演となりました。これまでACRにはほぼ毎年参加しており、発表もたびたびしているのですが要領は得ているつもりでしたが、やはり2つとなると準備も発表もなかなか大変でした。

ウィーンには学会の前日に到着し、翌日(学会初日)は朝のうちにregistrationを済ませました。会場はAustria Center Viennaという会議場で、一見して小さい印象を受けましたが実際に入ってみると大きな会場でした。シャトルバスがない代わりに市内の地下鉄や路面電車、バスなどが乗り放題になるチケットがもらえたので、この後の会場への往復や観光ではほとんどタクシーを使わずに済みました。初日はサテライトシンポジウムやlectureのみで、夜にはオープニングレセプションがありました。さすが音楽の都だけあって、オペラのアリアを交えたショーとなっておりとても楽しめました。その後はパーティになりましたが、会場があまり広くなく、料理に人が殺到するような感じでなかなか食べ物には辿り着けなかったのが早々に切り上げました。

2日目はポスターの発表のために早起きして会場に向かいました。ACRのように朝7時から会場が開いていて、ポスターを貼るものと思っておりましたが、「9時45分に会場を開けるからそれまではだめ」と言われ、展示会場には入れませんでした。私と同じ様にポスターをかかえて途方にくれる人がたくさんいました。ようやく入れるようになって、自分のポスターのボードに向かうと、何と誰かが間違えて私の場所にポスターを貼ってしまっておりました。連絡のとりようがないので会場の係の人に言ってははずしてもらいました。その後、ようやく自分のポスターを貼りつけ、その後は他のポスターを見て回りました。企業の展示は会場の真ん中に、ポスターは周辺部という形で並んでいたのが、回りにくい印象をうけました。プレゼンテーションの時間が来て、ポスター前に立ちましたが質問者は90分で数人でした。私のポスターは会

場の端の方でしたので、もともと人通りが少なく、発表中に知人に会うことはほとんどありませんでした。

その次の日は口演でしたが、朝から緊張して落ち着きませんでした。昨年のアメリカ留学中の仕事を発表したら、いくつか質問が出ました。私の発表はCPPD関節組織の組織学的な検討についての内容でしたが、患者の臨床的背景についての質問が多く、答えにくかったです。最後の演題だったので、セッションが終わった後に質問者と改めて話してみると、春の日本リウマチ学会の時に国際シンポジウムのために来日していたというイギリスの研究者でした。「僕、春に横浜に行ったんだよ」と言われて驚きました。

さて、これで発表も終わって一段落したのですが、夜にはせっかくのウィーンだし何かコンサートにでも行きたいと思っておりました。今回は上司の澤井高志教授と私の妹と3人の旅でしたが、妹の友人がウィーンに留学中ということで、コンサートをはじめいろいろな情報を彼女から得ることができました。ウィーン楽友協会でのコンサートは、最初チケットセンターに行った時には「立ち見席しかない」と言われましたが、ちょうどその時「行けなくなったからキャンセルしたい」という人が偶然現れました。その人との交渉は妹の友人がドイツ語でしてくれたので、幸運にも前から8列目という席で演奏を聴くことができました(ニューイヤーコンサートだったら絶対にテレビに映っています)。学会では自分の発表のために2日間を費やしてしまい、他の演題をじっくり聞く余裕があまりなかったことが悔やまれましたが、最後の最後に音楽の都を堪能できて、充実した旅をしめくくることができました。



## 海外留学中の会員だより

**圓尾 圭美**

東京女子医科大学附属  
膠原病リウマチ痛風センター

**■ イギリス(スコットランド)より**

2001年秋に渡英し、スコットランドのエディンバラ大学病理学でPhDの課程を、今まさに修了するところです。エディンバラ大学病理学はリウマチ学会奨励賞を受賞なさった岡山大学の西田圭一郎先生が留学されたラボと同じところで、直属の上司はG. NUKIやD. SALTERです。NUKI教授は今年4月横浜で開催された日本リウマチ学会総会・学術学会に出席されたのでご存知の方も多いのではないでしょうか。本誌ニュースレター4月号の海外留学記で紹介の梶山浩先生と私は、東京女子医科大学膠原病リウマチ痛風センターで隣り合わせの席というご縁でした。

NUKI教授と初めてお会いしました時、「リウマチの患者さんの手の関節は、利き手の方がそうでない方より壊れ方がひどいんだけど、どうしてだと思う？」と訊かれました。これが私のエディンバラ大学での研究の第一歩となりました。いつもにこやかな先生で、初めてのウエスタンプロット結果を手にしてNUKI教授をお訪ねした時、至る所に力強く指の跡が残っている膜をご覧になって、「やっぱり君は整形外科医だなあ！」と笑われてしまいました。こちらのPhD論文は

50,000語で、文献は400前後リストアップされ、自分の研究を書くこともさることながら、文献を読んでレビューを書くの方が大変です。自分の研究は大きな建物を建てるための1本の柱にすぎないことを痛感しています。

イギリスの医療は、さまざまな問題を抱えていますが、理想を捨てることなく「医療費はすべて国が負担する」という信念を堅持しています。リウマチのような痛みを伴い日常生活が制限がされ長期にわたって治療が必要となる疾患は、医療費の心配がないことで患者さんはどれだけ心強く安らぎを覚えられることかと、非常にうらやましく思います。予約をして診察を受けるまでの待ち時間 (waiting list) が長いことが問題になっていますが、リウマチ専門医の診察は質が重視され、診察時間30分と余裕を持たせています。その代わりに、分担業務が明確化されリウマチ専門医の指示の下でフォローアップ (点滴、経過観察、投薬など) はGP (地域の家庭医) やナース、理療はコメディカルとそれぞれ責任を持つシステムです。病院に行くといっても90%はリウマチ専門医に会うことがないということになっています。

私は、日本の医学部卒業資格とPhDと整形外科専門医資格が認められ、この夏からイギリスのGMCの登録医として臨床医に採用されました。待遇は研修医2年目 (SHO) ですが、1日14時間以上は勤務してはいけないとヨーロッパユニオンの規則が適用され、完全交代制です。GPが地域に居るという理由で小さな病院を全廃し大病院に集中する医療体制が整備されています。整形外科医がSHOだけで10人、総数50人がひとつの病院に勤務しているようです。日本でもいずれ研修医がこのように完全交代制になり、外科医はすべて大病院に集合させられるのかもしれませんが。

最後に、ここに到達できるまでにご指導、ご高配を賜りました東京女子医科大学附属膠原病リウマチ痛風センター整形外科の戸松泰介教授、桃原茂樹先生、東京女子医科大学第二病院の井上和彦教授、菅原幸子教授に、この紙面をお借りしまして心より御礼申し上げます。



# Suvenyl

関節機能改善剤

指定医薬品、処方せん医薬品<sup>注)</sup>

薬価基準収載

# スベニール<sup>®</sup> ディスポ バイアル

Suvenyl<sup>®</sup> ヒアルロン酸ナトリウム関節内注射液

注) 注意—医師等の処方せんにより使用すること

※「効能・効果」、「用法・用量」、「用法・用量に関連する使用上の注意」、「禁忌」、「使用上の注意」等については最新の添付文書をご参照ください。

<http://www.chugai-pharm.co.jp>

〔資料請求先〕  
製造発売元 **中外製薬株式会社**  
〒104-8301 東京都中央区京橋2-1-9

## (中)日本リウマチ学会が認定した教育研修会又は講演会

(中)日本リウマチ学会専門医資格維持施行細則による、当会が認めた教育研修会又は講演会は次の通りです。  
 なお、財団法人日本リウマチ財団が認めた登録医単位講演も専門医の単位として認められます。

### 2005年 9 月の研修会

2005.9.15(木)

**第3回群馬骨粗鬆症学術講演会**  
 群馬ロイヤルホテル「藤波の間」(前橋市)  
 1  
 開催場所  
 単 位  
 責任者(代表) 群馬大学医学部 整形外科 教授 高岸憲二  
 演 題 「骨粗鬆症と高齢者の脊柱変形  
 —身長低下と背中曲がりは防げるか—」  
 講 師 産業医科大学 整形外科 教授 中村利孝  
 認定講演時間 20:00 - 21:00  
 問い合わせ先 群馬大学医学部 整形外科 教授 高岸憲二  
 TEL: 027-220-7111 内線 (8260)

2005.9.15(木)

**骨粗鬆症特別講演会**  
 1  
 開催場所  
 単 位  
 責任者(代表) 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 病態解析・制御学講座  
 教授 江口勝美  
 演 題 「日常診療における骨粗鬆症の診断と治療」  
 講 師 帝京大学医学部附属市原病院 内分泌内科 助教授  
 岡崎 亮  
 認定講演時間 19:00 - 20:00  
 問い合わせ先 万有製薬株式会社 元山達郎  
 TEL: 095-823-7141

2005.9.15(木)

**骨粗鬆症特別講演会**  
 1  
 開催場所  
 単 位  
 責任者(代表) 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 病態解析・  
 制御学講座 教授 江口勝美  
 演 題 「椎間板の再生・変形抑制における内的・外的要因  
 —骨粗鬆症による影響も含めて—」  
 講 師 東海大学医学部 外科学系整形外科 教授 持田謙治  
 認定講演時間 20:00 - 21:00  
 問い合わせ先 万有製薬株式会社 元山達郎  
 TEL: 095-823-7141

2005.9.16(金)

**第1回 斯整会リウマチ研究会**  
 愛知県厚生年金会館 (名古屋市中種区)  
 1  
 開催場所  
 単 位  
 責任者(代表) 名古屋大学大学院医学研究科 筋・骨格系医学 教授  
 大塚隆信  
 演 題 「関節リウマチの新しい治療  
 —薬物療法、外科療法、リハビリテーション—」  
 講 師 日本大学医学部 整形外科 教授 龍順之助  
 認定講演時間 19:00 - 20:00  
 問い合わせ先 名古屋大学大学院医学研究科 筋・骨格系医学 教授  
 関谷勇人  
 TEL: 052-853-8236

2005.9.16(金)

**第6回 筑後骨粗鬆症研究会**  
 ルネサンス創世 (福岡県久留米市)  
 1  
 開催場所  
 単 位  
 責任者(代表) 久留米大学医学部 医学科整形外科 教授 永田見生  
 演 題 「関節リウマチに合併する骨粗鬆症の病態・病院と対策」  
 講 師 鳥取大学医学部 整形外科 教授 豊島良太  
 認定講演時間 20:00 - 21:00  
 問い合わせ先 住友製薬(株)久留米営業所 播本義彦  
 TEL: 0942-30-7712

2005.9.16(金)

**第14回 日本シェーングレン症候群研究会**  
 千葉市文化センター (千葉市)  
 1  
 開催場所  
 単 位  
 責任者(代表) 千葉大学大学院医学研究院 小児病態学 教授  
 河野陽一  
 演 題 「小児シェーングレン症候群と周辺疾患」  
 講 師 日本医科大学 小児科 助教授 伊藤保彦  
 認定講演時間 12:00 - 13:00  
 問い合わせ先 千葉大学大学院医学研究院 小児病態学 助手  
 富板美奈子  
 TEL: 043-226-2144

2005.9.16(金)

**第14回 日本シェーングレン症候群研究会**  
 千葉市文化センター (千葉市)  
 1  
 開催場所  
 単 位  
 責任者(代表) 千葉大学大学院医学研究院 小児病態学 教授  
 河野陽一  
 演 題 「自然免疫と自己免疫疾患」  
 講 師 東京大学医学部 感染遺伝学分野 教授  
 三宅健介  
 認定講演時間 18:00 - 19:00  
 問い合わせ先 千葉大学大学院医学研究院 小児病態学 助手  
 富板美奈子  
 TEL: 043-226-2144

2005.9.17(土)

**第14回 日本シェーングレン症候群研究会**  
 千葉市文化センター (千葉市)  
 1  
 開催場所  
 単 位  
 責任者(代表) 千葉大学大学院医学研究院 小児病態学 教授  
 河野陽一  
 演 題 「ドライアイ —診断と治療の最近の進歩—」  
 講 師 慶應義塾大学医学部 眼科 専任講師 後藤英樹  
 認定講演時間 12:00 - 13:00  
 問い合わせ先 千葉大学大学院医学研究院 小児病態学 助手  
 富板美奈子  
 TEL: 043-226-2144

2005.9.17(土)

**第14回 日本シェーングレン症候群研究会**  
 千葉市文化センター (千葉市)  
 1  
 開催場所  
 単 位  
 責任者(代表) 千葉大学大学院医学研究院 小児病態学 教授  
 河野陽一  
 演 題 「免疫記憶と疾患制御」  
 講 師 千葉大学大学院 医学研究院 分化制御学 教授  
 徳久剛史  
 認定講演時間 13:30 - 14:30  
 問い合わせ先 千葉大学大学院医学研究院 小児病態学 助手  
 富板美奈子  
 TEL: 043-226-2144

2005.9.17(土)

**兵庫県の外科症例検討会特別講演会**  
 ノボテル甲子園「愛宕の間」(兵庫県西宮市)  
 1  
 開催場所  
 単 位  
 責任者(代表) 兵庫医科大学 整形外科 助教授 田中寿一  
 演 題 「手の炎症性疾患について」  
 講 師 防衛医科大学 整形外科 教授 根本孝一  
 認定講演時間 16:00-17:00  
 問い合わせ先 やました整形外科 院長 山下仁司  
 TEL: 0794-26-8800

2005.9.17(土)

**第5回桜整形外科セミナー**  
 ホテルメトロポリタン「富士の間」(豊島区)  
 1  
 開催場所  
 単 位  
 責任者(代表) 日本大学医学部 整形外科 教授 龍 順之助  
 演 題 「Allograftを併用したTHR再置換術」  
 講 師 北里大学医学部 整形外科 主任教授 糸満盛憲  
 認定講演時間 18:35 - 19:35  
 問い合わせ先 日本大学医学部 整形外科 西郷嘉一郎  
 TEL: 03-3972-8111 内線 (2494)  
 FAX: 03-3972-4824

2005.9.23(金)

**第54回東日本整形災害外科学会**  
 新高輪プリンスホテル 国際館パミール 第VI会場「旭光」(港区)  
 1  
 開催場所  
 単 位  
 責任者(代表) 東邦大学医学部 整形外科教室 教授 勝呂 徹  
 演 題 「変形性膝関節症に対する片側仮骨延長法  
 (Hemicallotasis)を用いた脛骨骨切り術」  
 講 師 熊本大学大学院医学薬学研究部 教授 水田博志  
 認定講演時間 11:50 - 12:50  
 問い合わせ先 東邦大学医学部 整形外科教室 教授 勝呂 徹  
 TEL: 03-3762-4151 内線 (6635)  
 FAX: 03-3763-7539

2005.9.23(金)

**第54回東日本整形災害外科学会**  
 新高輪プリンスホテル 国際館パミール 第III会場「翠雲」(港区)  
 1  
 責任者(代表) 東邦大学医学部 整形外科学教室 教授 勝呂 徹  
 演題 「リウマチの最新治療は面白い！」  
 講師 筑波大学大学院人間総合科学研究科 先端応用医学  
 専攻臨床免疫学 教授 住田孝之  
 認定講演時間 12:00 - 13:00  
 問い合わせ先 東邦大学医学部 整形外科学教室 教授 勝呂 徹  
 TEL: 03-3762-4151 内線(6635)  
 FAX: 03-3763-7539

2005.9.23(金)

**第54回東日本整形災害外科学会**  
 新高輪プリンスホテル 国際館パミール 第II会場「白雲」(港区)  
 1  
 責任者(代表) 東邦大学医学部 整形外科学教室 教授 勝呂 徹  
 演題 「介助における動きの感覚の大切さ  
 -キネステティクス概念の応用-」  
 講師 市立土別病院総合診療科 診療部長 澤口祐二  
 認定講演時間 17:00 - 18:00  
 問い合わせ先 東邦大学医学部 整形外科学教室 教授 勝呂 徹  
 TEL: 03-3762-4151 内線(6635)  
 FAX: 03-3763-7539

2005.9.23(金)

**第54回東日本整形災害外科学会**  
 新高輪プリンスホテル 国際館パミール 第III会場「翠雲」(港区)  
 1  
 責任者(代表) 東邦大学医学部 整形外科学教室 教授 勝呂 徹  
 演題 「各種人工股関節の適応と手術の工夫」  
 講師 独立行政法人国立病院機構 大阪医療センター整形外科  
 部長 大園健二  
 認定講演時間 17:00 - 18:00  
 問い合わせ先 東邦大学医学部 整形外科学教室 教授 勝呂 徹  
 TEL: 03-3762-4151 内線(6635)  
 FAX: 03-3763-7539

2005.9.23(金)

**第54回東日本整形災害外科学会**  
 新高輪プリンスホテル 国際館パミール 第I会場「慶雲」(港区)  
 1  
 責任者(代表) 東邦大学医学部 整形外科学教室 教授 勝呂 徹  
 演題 「RAに対する各種生物学的製剤の比較」  
 講師 東邦大学医療センター大森病院膠原病科 診療部長  
 川合眞一  
 認定講演時間 17:00 - 18:00  
 問い合わせ先 東邦大学医学部 整形外科学教室 教授 勝呂 徹  
 TEL: 03-3762-4151 内線(6635)  
 FAX: 03-3763-7539

2005.9.24(土)

**第54回東日本整形災害外科学会**  
 新高輪プリンスホテル 国際館パミール 第I会場「慶雲」(港区)  
 1  
 責任者(代表) 東邦大学医学部 整形外科学教室 教授 勝呂 徹  
 演題 「関節機能を育てる物理学的環境設計」  
 講師 京都大学国際融合創造センター 教授 富田直秀  
 認定講演時間 9:40 - 10:40  
 問い合わせ先 東邦大学医学部 整形外科学教室 教授 勝呂 徹  
 TEL: 03-3762-4151 内線(6635)  
 FAX: 03-3763-7539

2005.9.24(土)

**第54回東日本整形災害外科学会**  
 新高輪プリンスホテル 国際館パミール 第VI会場「旭光」(港区)  
 1  
 責任者(代表) 東邦大学医学部 整形外科学教室 教授 勝呂 徹  
 演題 「関節リウマチの治療のABC」  
 講師 桐蔭横浜大学・先端医用工学センター 教授  
 松野博明  
 認定講演時間 11:50 - 12:50  
 問い合わせ先 東邦大学医学部 整形外科学教室 教授 勝呂 徹  
 TEL: 03-3762-4151 内線(6635)  
 FAX: 03-3763-7539

2005.9.24(土)

**第54回東日本整形災害外科学会**  
 新高輪プリンスホテル 国際館パミール 第III会場「翠雲」(港区)  
 1  
 責任者(代表) 東邦大学医学部 整形外科学教室 教授 勝呂 徹  
 演題 「肺血栓塞栓症リスクマネージメントの現状」  
 講師 近畿大学医学部 整形外科学教室 教授 濱西千秋  
 認定講演時間 11:50 - 12:50  
 問い合わせ先 東邦大学医学部 整形外科学教室 教授 勝呂 徹  
 TEL: 03-3762-4151 内線(6635)

FAX: 03-3763-7539

2005.9.24(土)

**第54回東日本整形災害外科学会**  
 新高輪プリンスホテル 国際館パミール 第I会場「慶雲」(港区)  
 1  
 責任者(代表) 東邦大学医学部 整形外科学教室 教授 勝呂 徹  
 演題 「Orthopaedic Engineering at the University of Florida  
 Technical/ Clinical Collaboration to Achieve Better  
 Patient Outcomes」  
 講師 Dept of Mechanical & Aerospace Engineering,  
 University of Florida, Assistant Professor  
 Scott A. Banks, PhD.  
 認定講演時間 14:00 - 15:00  
 問い合わせ先 東邦大学医学部 整形外科学教室 教授 勝呂 徹  
 TEL: 03-3762-4151 内線(6635)  
 FAX: 03-3763-7539

2005.9.24(土)

**リウマチ学会北河内(第4回)**  
 守口ロイヤルバインズホテル(大阪府守口市)  
 1  
 責任者(代表) 関西医科大学 整形外科 教授 飯田寛和  
 演題 「COX-2と最近の話題」  
 講師 兵庫医科大学内科学リウマチ膠原病科 教授  
 佐野 統  
 認定講演時間 16:30 - 17:30  
 問い合わせ先 武田薬品 マーケティング部 小暮奎次  
 TEL: 06-6204-2770 FAX: 06-6204-2593

2005.9.27(火)

**岡崎整形外科医会講演会**  
 岡崎ニューグランドホテル(岡崎市)  
 1  
 責任者(代表) 岡崎整形外科医会 会長 菅 正隆  
 演題 「リウマチの薬物治療最前線」  
 講師 埼玉医科大学総合医療センター リウマチ・膠原病  
 内科 教授 竹内 勤  
 認定講演時間 19:30 - 20:30  
 問い合わせ先 おおくぼ整形外科 院長 大久保和彦  
 TEL: 0564-55-8686

2005.9.28(水)

**第7回南大阪リウマチ研究会**  
 リーガルロイヤルホテル堺 3F「春慶」(大阪府堺市)  
 1  
 責任者(代表) 養田医院 院長 養田正豪  
 演題 「関節リウマチの最新治療  
 -生物学的製剤が使用可能な時代に入って-」  
 講師 藤田保健衛生大学医学部 リウマチ・感染症内科  
 吉田俊治  
 認定講演時間 20:00 - 21:00  
 問い合わせ先 養田医院 院長 養田正豪  
 TEL: 072-232-4967 FAX: 072-232-4967

2005.9.29(木)

**第1回愛知県抗サイトカイン研究会**  
 グランコート名古屋(名古屋市中)  
 1  
 責任者(代表) 名古屋大学医学部 整形外科 教授 石黒直樹  
 演題 「TNF- $\alpha$ 阻害療法による関節リウマチ治療のパラダイ  
 ムシフト -リウマチ治療が面白くなる-」  
 講師 産業医科大学 第一内科 田中良哉  
 認定講演時間 20:00 - 21:00  
 問い合わせ先 田辺製薬東海支店 杉浦 匡  
 TEL: 052-963-8240

2005.9.29(木)

**東京都城北整形外科医会**  
 池袋ホテルメトロポリタン(豊島区)  
 1  
 責任者(代表) 星野整形外科クリニック 院長 星野 孝  
 演題 「変形性股関節症に対する骨頭温存療法について」  
 講師 順天堂大学附属練馬病院 整形外科 助教授  
 野沢雅彦  
 認定講演時間 20:00 - 21:00  
 問い合わせ先 高仁会 高橋診療所 院長 高橋清輝  
 TEL: 03-3971-3329

2005.9.30(金)

**熊本骨粗鬆症研究会**  
 ホテルニューオータニ熊本(熊本市)  
 1  
 責任者(代表) 熊本大学大学院医学薬学研究部 運動骨格病態学分野  
 高木克公  
 演題 「骨粗鬆症性椎体骨折と腰背部痛」  
 講師 公立玉名中央病院 副院長 中野哲雄

# お知らせ

認定講演時間 19:00-20:00  
問い合わせ先 熊本大学大学院医学薬学研究部 運動骨格病態学分野  
高木克公  
TEL: 096-373-5226

2005.9.30(金)

開催場所 ホテルニューオータニ (千代田区)  
単位 1  
責任者(代表) 東京医科歯科大学 膠原病リウマチ内科 教授  
宮坂信之  
演題 「New Treatment Strategy in Rheumatoid Arthritis」  
講師 Leiden University Medical Center 教授  
Ferdinand C. Breedveld  
認定講演時間 20:00 - 21:00  
問い合わせ先 田辺製薬(株) 東京第一支店 猪俣利行  
TEL: 03-3230-6814 FAX: 03-3230-6609

## 2005年 10 月の研修会

2005.10.1(土)

東播整形外科医会 学術講演会  
開催場所 加古川プラザ 2F (兵庫県加古川市)  
単位 1  
責任者(代表) 川井整形外科 院長 川井和夫  
演題 「病理からみた整形外科疾患」  
講師 新日鐵広畑病院 顧問 岡田 聡  
認定講演時間 17:00 - 18:00  
問い合わせ先 やました整形外科 院長 山下仁司  
TEL: 0794-26-8800

2005.10.1(土)

第10回 北海道臨床リウマチフォーラム  
開催場所 京王プラザホテル札幌 3F「雅の間」(札幌市)  
単位 2  
責任者(代表) 北見赤十字病院 副院長 種市幸二  
演題1 「新しい薬剤の評価」  
講師 1) 生物学的製剤  
市立札幌病院 免疫血液内科 部長 向井正也  
2) レフルノミド  
北見赤十字病院 内科 部長 浄土 智  
3) 白血球除去療法  
帯広厚生病院 第三内科 医長 竹田 剛  
4) その他の抗リウマチ剤  
札幌医科大学医学部 第一内科 講師 高橋裕樹  
5) 総合討論  
認定講演時間 16:15 - 17:55  
演題2 「関節リウマチ治療薬の作用と副作用  
—基礎的薬剤MTXを中心として—」  
講師 東京慈恵医科大学 内科学講座 リウマチ・膠原病  
内科 教授 山田昭夫  
認定講演時間 18:10 - 19:10  
問い合わせ先 三菱ウェルファーマ株式会社 北海道支店学術企画  
グループ 小山芳弘  
TEL: 011-520-6001 内線(144)

2005.10.1(土)

第4回北関東リウマチ抗TNF療法研究会  
開催場所 八重洲富士屋ホテル (中央区)  
単位 1  
責任者(代表) 自治医科大学 アレルギー・膠原病科 教授  
養田清次  
演題 「抗TNF療法の最適化をめざして」  
講師 Department of Rheumatology, Leiden University  
Medical Centre Ferdinand C. Breedveld  
認定講演時間 18:00 - 19:00  
問い合わせ先 田辺製薬(株) 東京第二支店 東海 彰、吉田奈津子  
TEL: 03-3230-6938

2005.10.6(木)

第105回中部日本整形外科災害外科学会  
開催場所 米子コンベンションセンター(米子市)  
単位 1  
責任者(代表) 鳥取大学医学部 整形外科 教授 豊島良太  
演題 「わが国における生物学的製剤によるリウマチ治療の  
あり方」  
講師 岡山大学医学部 腎免疫内分泌代謝内科 助教授  
山村昌弘  
認定講演時間 12:00 - 13:00  
問い合わせ先 鳥取大学医学部 整形外科 講師 岡野 徹  
TEL: 0859-34-8115 FAX: 0859-34-8093

2005.10.6(木)

第4回北九州リウマチ薬物治療懇話会  
開催場所 リーガロイヤルホテル小倉4F「ロイヤルホール」(北九州市)

単位 2  
責任者(代表) 産業医科大学 第一内科学講座 教授 田中良哉

演題1

「最も効果的な生物学的使用基準の検討」インフリキシマブ離脱後も症状コントロールは可能か?  
その指標とは?

講師 産業医科大学 第一内科学講座 助教授 齋藤和義  
認定講演時間 19:15 - 20:15  
演題2 「診療所における新規抗リウマチ薬治療と病診連携」  
講師 近藤リウマチ・整形外科クリニック 院長 近藤正一  
認定講演時間 20:15 - 21:15  
問い合わせ先 田辺製薬(株) 北九州営業所 村瀬文隆  
TEL: 093-521-3931 FAX: 093-531-6083

2005.10.7(金)

メディカルフォーラム in Sapporo  
札幌グランドホテル(札幌市)  
開催場所  
単位 1  
責任者(代表) 北海道大学大学院医学研究科 病態内科学講座・  
第二内科 教授 小池隆夫  
演題 「関節リウマチ治療における戦術的NSAIDs投与方法」  
講師 東京女子医科大学附属膠原病リウマチ痛風センター  
教授 山中 寿  
認定講演時間 19:00 - 20:00  
問い合わせ先 大正富山医薬品(株) 札幌支店 櫻田昌史  
TEL: 011-512-2173 内線(471)

2005.10.8(土)

臨床免疫セミナー in Kyoto  
ウェスティン都ホテル京都 (京都市東山区)  
開催場所  
単位 2  
責任者(代表) 京都大学大学院医学研究科 臨床免疫学講座 教授  
三森経世  
演題1 「ワクチンの効果を支える分子機構」  
講師 東京医科歯科大学大学院 疾患生命科学部 教授  
鏑田武志  
認定講演時間 17:10 - 18:10  
演題2 「天疱瘡と自己免疫」  
講師 慶應義塾大学医学部 皮膚科学講座 教授 天谷雅行  
認定講演時間 18:10 - 19:10  
問い合わせ先 京都大学大学院医学研究科 臨床免疫学講座 内田志保  
TEL: 075-751-4380

2005.10.8(土)

第15回小児リウマチ学会総会学術集会 ランチョン  
セミナー  
灘尾ホール(千代田区)  
開催場所  
単位 1  
責任者(代表) 日本医科大学付属病院 小児科 助教授 伊藤保彦  
演題 「関節リウマチの治療  
—最新薬物治療から手術治療まで—」  
講師 聖マリアンナ医科大学難病治療研究センター  
生体機能・プロテオーム制御部門 講師 中村 洋  
認定講演時間 12:00 - 13:00  
問い合わせ先 日本医科大学付属病院 小児科 助教授 伊藤保彦  
TEL: 03-3822-2131 内線(6744)  
FAX: 03-5685-1792

2005.10.8(土)

リウマチ医のための福岡肺障害研究会  
ソラリア西鉄ホテル8F「雪」(福岡市中央区)  
開催場所  
単位 2  
責任者(代表) 近藤リウマチ・整形外科クリニック 院長 近藤正一  
演題1 「これだけは知っておきたいRA患者の間質性肺炎」  
講師 九州大学医学部保健学科 助教授 坂井修二  
認定講演時間 16:30 - 17:30  
演題2 「RA診療における肺結核と肺日和見感染の早期診断」  
講師 国家公務員共済連合会浜の町病院 呼吸器内科 部長  
樋口和行  
認定講演時間 17:30 - 18:30  
問い合わせ先 近藤リウマチ・整形外科クリニック 院長 近藤正一  
TEL: 092-762-2380 FAX: 092-762-2379

2005.10.9(日)

第15回日本小児リウマチ学会総会学術集会ランチョン  
セミナー  
全国社会福祉協議会・灘尾ホール(千代田区)  
開催場所  
単位 1  
責任者(代表) 日本医科大学付属病院 小児科学 助教授 伊藤保彦  
演題 「JIAに対する生物学的製剤の最近の知見」  
講師 横浜市立大学医学部 発生成育小児医療学 教授  
横田俊平  
認定講演時間 12:00 - 13:00  
問い合わせ先 田辺製薬株式会社千代田営業所 谷 栄悟  
TEL: 03-3230-6751 FAX: 03-3230-6755

2005.10.13(木)

**第3回 新潟尿酸代謝フォーラム**  
有壬記念館(新潟市)

1  
開催場所  
単 位  
責任者(代表)  
演 題  
講 師  
認定講演時間  
問い合わせ先

新潟大学医学部 整形外科 教授 遠藤直人  
「専門医が痛風になって  
—患者の立場からみた痛風治療戦略—」  
鹿児島大学大学院歯学総合研究科 神経内科・  
老年病学 教授 納 光弘  
19:30-20:30  
新潟大学医学部 整形外科学教室 荒木勝光  
TEL: 025-227-2272

2005.10.13(木)

**第2回 島根東部リウマチセミナー**  
ホテル栄道湖2F「鳳凰の間」(島根県松江市)

各1単位  
開催場所  
単 位  
責任者(代表)  
演題1  
講 師  
認定講演時間  
演題2  
講 師  
認定講演時間  
問い合わせ先

島根大学医学部 整形外科学 教授 内尾祐司  
「生物学的製剤の使用と問題点について」  
東京医科大学 膠原病リウマチ内科 教授  
宮坂信之  
17:45-18:45  
「RAにおける骨破壊機序と薬物療法の効果」  
近畿大学医学部奈良病院 整形外科リウマチ科 教授  
宗園 聡  
18:45-20:45  
島根大学医学部整形外科学教室 講師 岩佐潤二  
TEL: 0853-20-2241

2005.10.13(木)

**第3回 阪神リウマチ治療研究会**  
ホテルニューアルカイック3F「鳳凰の間」(兵庫県尼崎市)

2  
開催場所  
単 位  
責任者(代表)  
演題1  
講 師  
認定講演時間  
演題2  
講 師  
認定講演時間  
問い合わせ先

兵庫医科大学 内科学リウマチ・膠原病科 教授  
佐野 統  
「整形外科医から見た関節リウマチの薬物療法について」  
大阪厚生年金病院 整形外科 部長 大脇 肇  
18:30-19:30  
「関節リウマチに対するTNF $\alpha$ レセプター製剤:  
—エタナルセプトの使い方と注意点—」  
東邦大学医学部附属大森病院 膠原病科 教授  
川合眞一  
19:30-20:30  
兵庫医科大学 内科学リウマチ・膠原病科 助教授  
岩崎 剛  
TEL: 0798-45-6592

2005.10.14(金)

**二豊整形外科フォーラム**  
マリエールオークバイン(大分県中津市)

1  
開催場所  
単 位  
責任者(代表)  
演 題  
講 師  
認定講演時間  
問い合わせ先

川島整形外科病院 院長 川島眞人  
「関節リウマチ最新の治療」  
東京女子医科大学第二病院 整形外科 教授  
井上和彦  
19:00-20:00  
川島整形外科病院 副院長 佐々木誠人  
TEL: 0979-24-0464 内線(7003)  
FAX: 0979-24-6258

2005.10.14(金)

**第19回 浜松整形外科セミナー**  
浜松名鉄ホテル(浜松市)

1  
開催場所  
単 位  
責任者(代表)  
演 題  
講 師  
認定講演時間  
問い合わせ先

浜松医科大学 整形外科 教授 長野 昭  
「関節リウマチの新しい治療」  
—薬物療法・外科療法・リハビリテーション—  
日本大学医学部 整形外科学 教授 龍 順之助  
19:15-20:30  
三共株式会社 浜松出張所 田淵勝之  
TEL: 053-452-0011 FAX: 053-453-4085

2005.10.15(土)

**第3回 奈良県リウマチ研究会**  
三井ガーデンホテル奈良4F「飛天」(奈良市)

2  
開催場所  
単 位  
責任者(代表)  
演題1  
講 師  
認定講演時間  
演題2  
講 師  
認定講演時間  
問い合わせ先

奈良県立医科大学 整形外科学教室 教授 高倉義典  
「関節リウマチその病態、鑑別診断と治療について」  
天理よろづ相談所病院 総合診療教育部 副部長  
八田和夫  
17:00-18:00  
「関節破壊機序からみたRAの薬物療法の現状と今後」  
近畿大学医学部奈良病院 整形外科 教授 宗園 聡  
18:00-19:00  
奈良県立医科大学 整形外科学教室 教授 高倉義典

TEL: 0744-22-3051 内線(3425)

2005.10.15(土)

**第7回日本骨粗鬆症学会 EBMセミナー**  
大阪国際会議場(大阪市北区)

2  
開催場所  
単 位  
責任者(代表)  
演題1  
講 師  
認定講演時間  
演題2  
講 師  
認定講演時間  
演題3  
講 師  
認定講演時間  
問い合わせ先

大阪府立大学大学院医学研究科 内科学第二 教授  
西沢良記  
「ステロイド性骨粗鬆症のガイドラインと治療について」  
藤田保健衛生大学医学部 臨床検査部 講師  
田中郁子  
15:10-15:55  
「骨粗鬆症性椎体骨折の病理と整形外科的治療体系について」  
北海道大学大学院医学研究科 整形外科学 講師  
伊東 学  
15:55-16:40  
「骨粗鬆症の薬物治療での適正使用ガイドラインにお  
ける骨代謝マーカーについて」  
大阪府立大学大学院 老年内科学 助教授 三木隆己  
16:50-17:35  
大阪府立大学大学院医学研究科 代謝内分泌病態内科学  
助教授 稲葉雅章  
TEL: 06-6645-3806

2005.10.15(土)

**第33回北海道膠原談話会**  
中外製薬(株)札幌支店会議室(札幌市中央区)

1  
開催場所  
単 位  
責任者(代表)  
演 題  
講 師  
認定講演時間  
問い合わせ先

札幌山の上病院 院長 リウマチ膠原病センター長  
佐川 昭  
市立札幌病院 免疫血液内科 向井正也  
「リウマチ診療における画像診断の役割」  
札幌山の上病院 院長 リウマチ膠原病センター長  
佐川 昭  
16:00-17:00  
中外製薬(株)札幌支店 大田良樹  
TEL: 011-271-9687

2005.10.15(土)

**第9回整形外科カレントコンセプト**  
フォーシーズンズホテル椿山荘(文京区)

1  
開催場所  
単 位  
責任者(代表)  
演 題  
講 師  
認定講演時間  
問い合わせ先

帝京大学医学部 整形外科学 教授 松下 隆  
「骨置換材料の進歩」  
京都大学大学院医学研究科 感覚運動系外科 教授  
中村孝志  
18:30-19:30  
帝京大学医学部 整形外科学教室 村上綱枝  
TEL: 03-3964-4097 内線(1530)

2005.10.15(土)

**兵庫県整形外科医会 学術講演会(平成17年度第4回)**  
生田神社会館4F「蓬莱の間」(神戸市中央区)

1  
開催場所  
単 位  
責任者(代表)  
演 題  
講 師  
認定講演時間  
問い合わせ先

川合整形外科 院長 川井和夫  
「外来診療における軟部腫瘍」  
香川大学医学部 整形外科学 教授 山本哲司  
16:00-17:00  
やました整形外科 院長 山下仁司  
TEL: 0794-26-8800

2005.10.18(火)

**第12回久留米リウマチ膠原病研究会**  
久留米翠華園ホテル(福岡県久留米市)

1  
開催場所  
単 位  
責任者(代表)  
演題1  
講 師  
認定講演時間  
問い合わせ先

久留米大学医学部 第一内科 相澤久道  
「リウマチ頸椎病変  
—外科治療と生命予後、機能予後について—」  
独立行政法人国立病院機構 大阪南医療センター  
副院長 米延策雄  
19:00-20:00  
久留米大学医療センター 教授 福田孝昭  
TEL: 0942-22-6111

2005.10.20(木)

**第20回日本整形外科学会基礎学術集会(伊勢・志摩セミナー)**  
三重県営サンアリーナ(伊勢市)

1  
開催場所  
単 位  
責任者(代表)  
演題1  
講 師  
認定講演時間  
問い合わせ先

三重大学医学部 整形外科学講座 教授 内田淳正  
「ゲノム時代の整形外科  
—変形性関節症の原因遺伝子の同定—」  
理化学研究所・遺伝子多型研究センター 変形性関節  
症関連遺伝子研究チーム チームリーダー  
池川志郎  
10:10-11:10  
三重大学医学部 整形外科学講座内 平田 仁  
TEL: 059-231-5022

# お知らせ

2005.10.21(金) **白津医師会学術講演会**  
開催場所 つくみかん (大分県津久見市)  
単 位 1  
責任者 (代表) 大石医院 大石省一郎  
演題1 「我が国におけるステロイド性骨粗鬆症の管理と治療のガイドライン」  
講 師 藤田保健衛生大学医学部臨床検査部 講師 田中郁子  
認定講演時間 18:30 - 20:00  
問い合わせ先 エーザイ (株) 大分医薬部 源 啓幸  
TEL: 097-532-4667

2005.10.21(金) **第20回日本整形外科学会基礎学術集会(伊勢・志摩セミナー)**  
開催場所 三重県営サンアリーナ (伊勢市)  
単 位 1  
責任者 (代表) 三重大学医学部 整形外科学講座 教授 内田淳正  
演題 「骨結合性材料の現状と新しい可能性」  
講 師 中部大学総合工学研究所 教授 小久保正  
認定講演時間 12:00 - 13:00  
問い合わせ先 三重大学医学部 整形外科学講座内 平田 仁  
TEL: 059-231-5022

2005.10.21(金) **第20回日本整形外科学会基礎学術集会(伊勢・志摩セミナー)**  
開催場所 三重県営サンアリーナ (伊勢市)  
単 位 1  
責任者 (代表) 三重大学医学部 整形外科学講座 教授 内田淳正  
演題 「関節炎発症の分子機構とその制御」  
講 師 聖マリアンナ医科大学附属難病治療研究センター  
センター長 西岡久寿樹  
認定講演時間 12:00 - 13:00  
問い合わせ先 三重大学医学部 整形外科学講座内 平田 仁  
TEL: 059-231-5022

2005.10.21(金) **第20回日本整形外科学会基礎学術集会(伊勢・志摩セミナー)**  
開催場所 三重県営サンアリーナ (伊勢市)  
単 位 1  
責任者 (代表) 三重大学医学部 整形外科学講座 教授 内田淳正  
演題 「破骨細胞形成の初期段階  
—多核巨細胞形成の分子機構—」  
講 師 三重大学大学院医学系研究科 生命医科学専攻  
病態解明医学講座 感染症制御学分野 教授  
伊藤康彦  
認定講演時間 12:00 - 13:00  
問い合わせ先 三重大学医学部 整形外科学講座内 平田 仁  
TEL: 059-231-5022

2005.10.22(土) **第26回 東京都リウマチ膠原病懇話会**  
開催場所 新宿ワシントンホテル新館4F「桜」 (新宿区)  
単 位 2  
責任者 (代表) 東京都立府中病院 副院長 香宗我部 滋  
演題1 「関節リウマチと骨代謝」  
講 師 埼玉医科大学 整形外科 教授 織田弘美  
認定講演時間 16:00 - 17:00  
演題2 「早老症候群のリウマチ症状」  
講 師 桐蔭横浜大学医工学部 医工学科不老科学・加齢  
制御学部門 教授 後藤 眞  
認定講演時間 17:00 - 18:00  
問い合わせ先 参天製薬株式会社 東京・神奈川エリアオフィス  
村上 勝  
TEL: 045-252-7470 FAX: 097-534-0445

2005.10.22(土) **第3回城東RAカンファレンス**  
開催場所 浅草ビューホテル (台東区)  
単 位 1  
責任者 (代表) 東京女子医科大学第二病院 院長 井上和彦  
演題1 「関節リウマチ治療戦略におけるTNF阻害療法  
—有効性と安全性の両立のために—」  
講 師 東京医科歯科大学 膠原病・リウマチ内科 助教授  
針谷正祥  
認定講演時間 16:00 - 17:00  
問い合わせ先 東京女子医科大学第二病院 院長 井上和彦  
TEL: 03-3810-1111

2005.10.22(土) **横浜人工関節セミナー**  
開催場所 横浜エクセルホテル東急 (横浜市)  
単 位 1  
責任者 (代表) 横浜国立大学医学部 整形外科 教授 齋藤知行  
演題1 「人工関節の現状と動向について  
—特に変形性関節症と関節リウマチに対して—」  
講 師 ASTOM R&D; (独) 理化学研究所ベンチャー企業 技術

認定講演時間 19:00 - 20:00  
問い合わせ先 顧問 大森健一  
横浜市立大学附属市民総合医療センター 整形外科 部長  
三ツ木直人  
TEL: 045-261-5656 内線 (2160)  
FAX: 045-252-7470

2005.10.28(金) **第3回 多摩川臨床整形外科医会**  
開催場所 帝京大学溝口病院 (川崎市)  
単 位 1  
責任者 (代表) 帝京大学溝口病院 整形外科 助教授 出沢 明  
演題 「骨粗鬆症の治療戦略—日常診療におけるEBMの実践—」  
講 師 近畿大学医学部奈良病院 整形外科・リウマチ科 教授  
宗園 聡  
認定講演時間 19:30 - 20:30  
問い合わせ先 帝京大学溝口病院 整形外科 助教授 出沢 明  
TEL: 044-844-3333

2005.10.28(金) **第28回 瑞穂卒後研修セミナー**  
開催場所 ホテルプランコート名古屋 (名古屋市中区)  
単 位 1  
責任者 (代表) 名古屋市立大学大学院医学研究科 社会復帰医学講座  
筋・骨格系医学 教授 大塚隆信  
演題 「関節疾患の病態を反映するマーカーの有用性について」  
講 師 藤田保健衛生大学 整形外科 教授 山田治基  
認定講演時間 19:30 - 20:30  
問い合わせ先 名古屋市立大学大学院医学研究科 社会復帰医学講座  
筋・骨格系医学 教授 関谷勇人  
TEL: 052-853-8236

2005.10.28(金) **第33回日本臨床免疫学会総会**  
開催場所 国立京都国際会館アネックスホール「アネックス1」 (京都市左京区)  
単 位 1  
責任者 (代表) 京都大学大学院医学研究科 臨床免疫学 教授 三森経世  
演題 「自己抗体の産生機構と臨床病態」  
講 師 順天堂大学医学部 膠原病内科 助教授 高崎芳成  
認定講演時間 11:30 - 12:30  
問い合わせ先 京都大学大学院医学研究科 臨床免疫学 藤井隆夫  
TEL: 075-751-4380

2005.10.28(金) **第33回日本臨床免疫学会総会**  
開催場所 国立京都国際会館アネックスホール「Room B-2」 (京都市左京区)  
単 位 1  
責任者 (代表) 京都大学大学院医学研究科 臨床免疫学 教授 三森経世  
演題 「シェーングレン症候群の基礎と臨床」  
講 師 金沢医科大学 血液免疫内科 助教授 小川法良  
認定講演時間 11:30 - 12:30  
問い合わせ先 京都大学大学院医学研究科 臨床免疫学 藤井隆夫  
TEL: 075-751-4380

2005.10.29(土) **第18回群馬整形外科講演会**  
開催場所 群馬ロイヤルホテル 3F「ふじなみ」 (群馬県前橋市)  
単 位 1  
責任者 (代表) 群馬大学医学部 整形外科 教授 高岸憲二  
演題 「診療所における最新のRA治療」  
講 師 近藤リウマチ・整形外科クリニック 院長 近藤正一  
認定講演時間 17:00 - 18:00  
問い合わせ先 群馬大学医学部 整形外科 教授 高岸憲二  
TEL: 027-220-7111 内線 (8260)

2005.10.29(土) **第33回日本臨床免疫学会総会**  
開催場所 国立京都国際会館アネックスホール「Room B-2」 (京都市左京区)  
単 位 1  
責任者 (代表) 京都大学大学院医学研究科 臨床免疫学 教授 三森経世  
演題 「骨破壊をターゲットにした関節リウマチの治療戦略」  
講 師 東京大学医学部 整形外科 講師 田中 栄  
認定講演時間 12:00 - 13:00  
問い合わせ先 京都大学大学院医学研究科 臨床免疫学 藤井隆夫  
TEL: 075-751-4380

2005.10.29(土) **第33回日本臨床免疫学会総会**  
開催場所 国立京都国際会館アネックスホール「アネックス1」 (京都市左京区)  
単 位 1  
責任者 (代表) 京都大学大学院医学研究科 臨床免疫学 教授 三森経世  
演題 「B cell tolerance, autoimmunity and autoimmune disease」  
講 師 Columbia University, Department of Medicine  
教授 (Professor) Betty Diamond  
認定講演時間 12:00 - 13:00

問い合わせ先 京都大学大学院医学研究科 臨床免疫学 藤井隆夫  
TEL: 075-751-4380

2005.10.29(土)

**第20回神戸免疫-膠原病懇話会**  
神戸市産業振興センター9F「901号会議室」(神戸市中央区)  
2  
開催場所  
単位  
責任者(代表) 鐘紡記念病院 内科 医長 黒木康雄  
演題 「膠原病の肺病変」  
講師 NTT西日本大阪病院 内科 部長 前田恵治  
認定講演時間 16:30 - 17:30  
演題2 「膠原病の腎病変」  
講師 市立堺病院 腎・代謝(免疫)内科 診療局長 金万和志  
認定講演時間 17:30 - 18:30  
問い合わせ先 参天製薬株式会社 黒本卓司  
TEL: 06-4807-3003

## 2005年 11 月の研修会

2005.11.4(金)

**第20回 日本臨床リウマチ学会**  
神戸国際会議場(神戸市)  
1  
開催場所  
単位  
責任者(代表) 近畿大学医学部 整形外科 教授 浜西千秋  
演題 「日本におけるリウマチ学の歴史と展望」  
講師 近畿大学 名誉教授 田中清介  
認定講演時間 9:00 - 10:00  
問い合わせ先 近畿大学医学部 整形外科 大久保眞美  
TEL: 072-366-0221

2005.11.4(金)

**第20回 日本臨床リウマチ学会**  
神戸国際会議場(神戸市)  
1  
開催場所  
単位  
責任者(代表) 近畿大学医学部 整形外科 教授 浜西千秋  
演題 「TNF $\alpha$ 阻害療法がリウマチ治療にもたらすもの」  
講師 産業医科大学第一内科 教授 田中良哉  
認定講演時間 12:00 - 13:00  
問い合わせ先 近畿大学医学部 整形外科 大久保眞美  
TEL: 072-366-0221

2005.11.4(金)

**第20回 日本臨床リウマチ学会**  
神戸国際会議場(神戸市)  
1  
開催場所  
単位  
責任者(代表) 近畿大学医学部 整形外科 教授 浜西千秋  
演題 「生物学的製剤に関する最新の話」  
講師 埼玉医科大学総合医療センター 第二内科 教授 竹内 勤  
認定講演時間 12:00 - 13:00  
問い合わせ先 近畿大学医学部 整形外科 大久保眞美  
TEL: 072-366-0221

2005.11.4(金)

**第20回 日本臨床リウマチ学会**  
神戸国際会議場(神戸市)  
1  
開催場所  
単位  
責任者(代表) 近畿大学医学部 整形外科 教授 浜西千秋  
演題 「関節リウマチ治療におけるタクロリムスの有効性と安全性」  
講師 東京医科歯科大学膠原病リウマチ内科 教授 宮坂信之  
認定講演時間 12:00-13:00  
問い合わせ先 近畿大学医学部 整形外科 大久保眞美  
TEL: 072-366-0221

2005.11.5(金)

**第20回 日本臨床リウマチ学会**  
神戸国際会議場(神戸市)  
1  
開催場所  
単位  
責任者(代表) 近畿大学医学部 整形外科 教授 浜西千秋  
演題 「関節リウマチの薬物療法」  
講師 東海大学医学部内科学系 助教授 鈴木康夫  
認定講演時間 11:30 - 12:30  
問い合わせ先 近畿大学医学部 整形外科 大久保眞美  
TEL: 072-366-0221

2005.11.5(金)

**第20回 日本臨床リウマチ学会**  
神戸国際会議場(神戸市)  
1  
開催場所  
単位  
責任者(代表) 近畿大学医学部 整形外科 教授 浜西千秋  
演題 「変形性膝関節症保存的治療」  
講師 近畿大学医学部 堺病院整形外科 教授 菊池 啓  
認定講演時間 11:30 - 12:30  
問い合わせ先 近畿大学医学部 整形外科 大久保眞美  
TEL: 072-366-0221

2005.11.5(金)

**第20回 日本臨床リウマチ学会**  
神戸国際会議場(神戸市)  
1  
開催場所  
単位  
責任者(代表) 近畿大学医学部 整形外科 教授 浜西千秋  
演題 「新規抗リウマチ薬の安全性の検討  
—日和見感染症を含めた肺障害を中心に—」  
講師 聖マリアンナ医科大学 リウマチ・膠原病・アレルギー内科 助教授 山田秀裕  
認定講演時間 11:30 - 12:30  
問い合わせ先 近畿大学医学部 整形外科 大久保眞美  
TEL: 072-366-0221

2005.11.5(金)

**第20回 日本臨床リウマチ学会**  
神戸国際会議場(神戸市)  
1  
開催場所  
単位  
責任者(代表) 近畿大学医学部 整形外科 教授 浜西千秋  
演題 ①「エタネルセプト市販後調査でわかったこと」  
②「RAにおけるエタネルセプト投与の実際」  
講師 ①東京女子医科大学附属第二病院 整形外科 教授 井上和彦  
②東京女子医科大学附属膠原病リウマチ痛風センター 教授 山中 寿  
認定講演時間 15:40 - 16:40  
問い合わせ先 近畿大学医学部 整形外科 大久保眞美  
TEL: 072-366-0221

2005.11.10(木)

**第6回城北関節炎・RA・OA・AS談話会**  
ホテルメトロポリタン(豊島区)  
1  
開催場所  
単位  
責任者(代表) 星野整形外科クリニック 院長 星野 孝  
演題 「関節リウマチ薬物療法の新展開」  
講師 東京女子医科大学附属膠原病リウマチ痛風センター 教授 山中 寿  
認定講演時間 20:00 - 21:00  
問い合わせ先 星野整形外科クリニック 院長 星野 孝  
TEL: 03-5982-6191

2005.11.12(土)

**第4回 福岡整形外科懇話会**  
ホテルオークラ福岡(福岡市博多区)  
1  
開催場所  
単位  
責任者(代表) 福岡大学医学部 整形外科教室 教授 内藤正俊  
演題 「バイオメカニクスから見た股関節疾患」  
講師 大分大学医学部 整形外科 教授 津村 弘  
認定講演時間 19:30 - 20:30  
問い合わせ先 福岡大学医学部 整形外科教室 医局長 城島 宏  
TEL: 092-801-1011

2005.11.12(土)

**第36回多摩リウマチ研究会**  
パレスホテル立川(東京都立川市)  
1  
開催場所  
単位  
責任者(代表) 杏林大学医学部 第一内科 教授 中林公正  
演題 「変形性膝関節症に対する治療法」  
講師 広島大学医学部 整形外科学 教授 越智光夫  
認定講演時間 16:25 - 17:25  
問い合わせ先 杏林大学医学部 第一内科 多摩リウマチ研究会 中林公正  
TEL: 0422-47-5512 内線(5915)

2005.11.12(土)

**第36回多摩リウマチ研究会**  
パレスホテル立川(東京都立川市)  
1  
開催場所  
単位  
責任者(代表) 杏林大学医学部 第一内科 教授 中林公正  
演題 「脊椎関節炎 —脊椎関節炎とSAPHOを中心に—」  
講師 医療法人協和会 協和会病院リウマチセンター センター長 村田紀和  
認定講演時間 17:35 - 18:35  
問い合わせ先 杏林大学医学部 第一内科 多摩リウマチ研究会 中林公正  
TEL: 0422-47-5512 内線(5915)

2005.11.12(土)

**兵庫医大整形外科開業医会学術講演会(第六回)**  
阪急ターミナルスクエア・17(大阪市)  
1  
開催場所  
単位  
責任者(代表) 塩田整形外科 院長 塩田 誠  
演題 「大腿骨頭部・転子部骨折の疫学・予防・治療」  
—診療ガイドラインの内容を中心に—  
講師 鳥取大学医学部附属病院 リハビリテーション部 部長 萩野 浩  
認定講演時間 16:15 - 17:15  
問い合わせ先 敬誠会合志病院 整形外科 富永浩司  
TEL: 06-6488-1601 FAX: 06-6488-1941

# お知らせ

2005.11.13(日) **第183回新潟整形外科研究会**  
開催場所 新潟大学医学部有任記念館(新潟市)  
単 位 1  
責任者(代表) 新潟大学医学部 整形外科教室 教授 遠藤 直人  
演 題 「RAにおける関節破壊:メカニズムと薬物療法の効果」  
講 師 九州大学医学部 整形外科教室 教授 岩本幸英  
認定講演時間 12:00-13:00  
問い合わせ先 新潟大学医学部 整形外科教室 桑原美智子  
TEL:025-227-2272 FAX:025-227-0782

2005.11.16(水) **第20回ひがし東京リウマチ研究会**  
開催場所 東京マリオートホテル錦糸町東武(墨田区)  
単 位 1  
責任者(代表) 内田クリニック 院長 内田詔爾  
演 題 「関節リウマチ治療薬の副作用モニタリング」  
講 師 都立駒込病院 アレルギー膠原病科 部長 猪熊茂子  
認定講演時間 19:30-20:30  
問い合わせ先 内田クリニック 院長 内田詔爾  
TEL:03-5619-6050

2005.11.16(水) **第9回長崎関節外科懇話会**  
開催場所 ベストウエスタンプレミアホテル長崎3F(長崎市)  
単 位 1  
責任者(代表) 長崎大学医学部 整形外科 教授 進藤裕幸  
演 題 「股関節のバイオメカニクス」  
講 師 一コンピュータ・シミュレーションを用いて  
大分大学医学部 整形外科 教授 津村 弘  
認定講演時間 19:00-20:00  
問い合わせ先 長崎大学医学部・歯学部附属病院 整形外科 米倉暁彦  
TEL:095-841-7321 FAX:095-849-7325

2005.11.18(金) **中越地区リウマチのケア講演会**  
開催場所 長岡赤十字病院「講堂」(新潟県長岡市)  
単 位 1  
責任者(代表) 長岡赤十字病院 リウマチ科 部長 羽生忠正  
演 題 「関節リウマチのトータルマネジメント」  
講 師 一番町リウマチクリニック 顧問 山本純己  
認定講演時間 18:00-19:00  
問い合わせ先 長岡赤十字病院 リウマチ科 部長 羽生忠正  
TEL:0258-28-3600

2005.11.18(金) **第5回オステオポロシスフォーラム in 茨城**  
開催場所 水戸プラザホテル アンフィシアター(水戸市)  
単 位 1  
責任者(代表) 恒仁会石塚地方病院 院長 山崎雄一郎  
演 題 「ステロイド性骨粗鬆症の病態と最新の治療戦略」  
講 師 近畿大学医学部奈良病院 整形外科・リウマチ科 教授 宗園 聡  
認定講演時間 20:00-21:00  
問い合わせ先 恒仁会石塚地方病院 院長 山崎雄一郎  
TEL:029-288-3121

2005.11.19(土) **第53回 神奈川リウマチ医学会**  
開催場所 鶴屋町フォーラム(横浜市)  
単 位 1  
責任者(代表) 独立行政法人国立病院機構 相模原病院 整形外科 医長 森 俊仁  
演 題 「関節リウマチ関連遺伝子の同定 ～ラージスケールアプローチとその成果(PADI4, SLC22A4, FCRL3)～」  
講 師 京都大学医学研究科附属ゲノム医学センター 助教授 山田 亮  
認定講演時間 17:00-18:00  
問い合わせ先 独立行政法人国立病院機構 相模原病院 整形外科 医長 森 俊仁  
TEL:042-742-8311 内線(7115)

2005.11.19(土) **第53回 神奈川リウマチ医学会**  
開催場所 鶴屋町フォーラム(横浜市)  
単 位 1  
責任者(代表) 独立行政法人国立病院機構 相模原病院 整形外科 医長 森 俊仁  
演 題 「関節リウマチの骨代謝ー基礎と臨床」  
講 師 埼玉医科大学 整形外科 教授 織田弘美  
認定講演時間 18:00-19:00  
問い合わせ先 独立行政法人国立病院機構 相模原病院 整形外科 医長 森 俊仁  
TEL:042-742-8311 内線(7115)

2005.11.19(土) **第9回桜リウマチ研究会**  
開催場所 ホテルメトロポリタン(豊島区)  
単 位 2  
責任者(代表) 日本大学医学部 整形外科教室 教授 龍順之助  
演 題 1 「関節リウマチ治療の新たなゴールを求めて」  
講 師 東京女子医科大学附属膠原病リウマチ痛風センター 教授 山中 寿  
認定講演時間 18:00-19:00  
演 題 2 「関節リウマチの画像診断」  
講 師 名古屋大学大学院医学系研究科機能構築医学専攻運動・形態外科学講座整形外科 教授 石黒直樹  
認定講演時間 19:00-20:00  
問い合わせ先 日本大学医学部 整形外科教室 教授 龍順之助  
TEL:03-3972-8111 内線(2492)  
FAX:03-3972-4824

2005.11.19(土) **第39回信州リウマチ膠原病懇話会**  
開催場所 ホテルサンルート(長野市)  
単 位 1  
責任者(代表) 長野赤十字病院 整形外科 部長 金物壽久  
演 題 1 「抗リウマチ薬の使い方」  
講 師 東京女子医科大学附属膠原病リウマチ痛風センター 内科 助教授 谷口敦夫  
認定講演時間 18:00-19:00  
問い合わせ先 長野赤十字病院内 信州リウマチ膠原病懇話会 事務局 金物壽久  
TEL:026-226-4131 内線(5074)

2005.11.19(土) **第8回小牧整形外科病診連携の会**  
開催場所 愛知県厚生年金会館 ウェルシティーなごや(名古屋市)  
単 位 1  
責任者(代表) 森川整形外科医院 医師 森川圭造  
演 題 1 「変形性膝関節症の疫学と骨粗鬆症」  
講 師 三重大学医学部 整形外科 講師 須藤啓広  
認定講演時間 17:00-18:00  
問い合わせ先 森川整形外科医院内 小牧整形外科病診連携の会 森川圭造  
TEL:0568-77-1739 FAX:0568-77-6069

2005.11.24(木) **第9回 大田区リウマチ・膠原病研究会**  
開催場所 大田区民ホールアブリコ 地下1F「小ホール」(大田区)  
単 位 1  
責任者(代表) 東邦大学医学部 整形外科教室 教授 勝呂 徹  
演 題 1 「リウマチ性疾患における骨粗鬆症の病態と対策」  
講 師 近畿大学医学部奈良病院 整形外科リウマチ科 教授 宗園 聡  
認定講演時間 19:30-20:30  
問い合わせ先 東邦大学医学部 整形外科教室 講師 関口昌之  
TEL:03-3762-4151 内線(6630)

2005.11.26(土) **第33回 湘南免疫疾患カンファランス**  
開催場所 鶴屋町フォーラム(横浜市)  
単 位 1  
責任者(代表) 横浜南共済病院 リウマチ科 部長 長岡章平  
演 題 「ループス腎炎の新しい分類と治療」  
講 師 独立行政法人国立病院機構相模原病院 内科医長 竹下康代  
認定講演時間 16:00-17:00  
問い合わせ先 横浜南共済病院 リウマチ科 部長 長岡章平  
TEL:045-712-2101 MPS(7033)

## 2005年 12 月の研修会

2005.12.2(金) **第66回福岡リウマチ懇話会**  
開催場所 三鷹ホール(福岡市)  
単 位 1  
責任者(代表) 近藤リウマチ・整形外科クリニック 院長 近藤 正一  
演 題 「関節リウマチの病態における神経ペプチド、シクロオキシゲナーゼ-2、スフィンゴ脂質の役割とその制御による治療の可能性」  
講 師 兵庫医科大学総合内科学リウマチ・膠原病科 教授 佐野 統  
認定講演時間 20:00-21:00  
問い合わせ先 近藤リウマチ・整形外科クリニック 院長 近藤 正一  
TEL:092-762-2380

最新の情報は、学会ホームページでご覧下さい。  
URL: <http://www.ryumachi-jp.com>

■ **APLAR2006のご案内** ■

12th Asia Pacific League of Associations for Rheumatology  
**Asian Rheumatology 'FACING THE CHALLENGES'**  
 1-5 August 2006 Kuala Lumpur, Malaysia

**演題投稿について**

演題投稿締切：2006年2月15日

投稿方法：電子投稿のみ

使用言語：英語のみ

演題カテゴリー：ホームページにてご確認ください。

<http://www.aplar2006.com/marketroot/aplar2006/catalog/exchange/topc2775.html>

演題：Short oral presentations (15分/演題 ※質疑応答を含む)

Poster presentations

採否：2006年3月31日までにE-mailにて演題受理の可否を通知

※申請されたアドレスに送付されます。

事前参加登録：2006年4月30日まで (Early Registration)

※演題の受理者も別途参加登録が必要となります。

プログラム：Abstract Selection Committeeの選考によって受理された演題はAPLAR2006のホームページに大会前より公開され、また抄録集にも掲載されます。

演題の取消し：2月15日までにE-mailでAPLAR2006事務局に連絡

**演題の事前確認**

2006年2月15日まで、ホームページ上でログインし、投稿した演題を確認することが出来ます。期日までに完成した演題は審査へと移行されます。「未完成」の演題は審査の対象外となります。

**その他詳細について**

詳細はAPLAR2006のホームページをご覧ください。

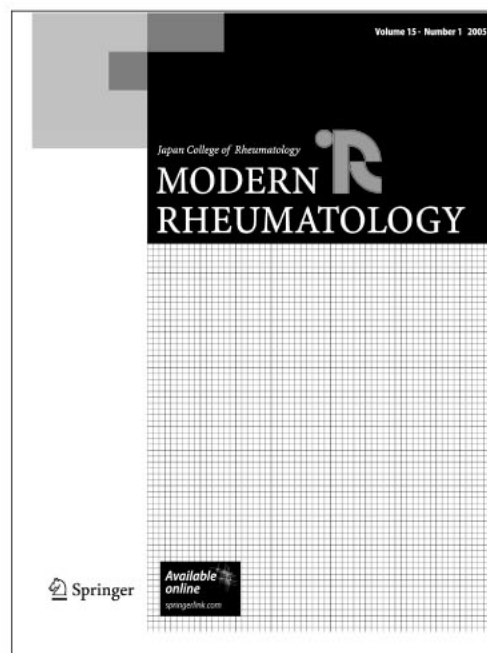
URL: <http://www.aplar2006.com/>

E-mail: [enquiry@aplar2006.com](mailto:enquiry@aplar2006.com)

**2006APLARスケジュール**

Time/Day	Tuesday 1 August	Wednesday 2 August	Thursday 3 August	Friday 4 August	Saturday 5 August						
8.00 AM~8.45 AM	Meet The Experts & Workshops										
9.00 AM~10.20AM	Plenary Lectures										
10.20AM~11.00 AM	Tea Break & Poster Viewing										
11.00AM~12.30 AM	REGISTRATION	Concurrent Sessions	Paediatric Rheum	Allied Health	Concurrent Sessions	Paediatric Rheum	Allied Health	Concurrent Sessions	Paediatric Rheum	Allied Health	
12.30AM~2.00 PM		Lunch Symposium									
2.00 PM~3.00 PM		Clinical Review Course	ACR Symposium	Concurrent Sessions	JCR Symposium	Concurrent Sessions	EULAR Symposium	Concurrent Sessions			
3.00 PM~3.30 PM			Tea Break								
3.30 PM~4.30 PM	Opening Ceremony & Reception	Concurrent Sessions	Free Communication Sessions	ILAR Symposium	Concurrent Sessions	Free Communication Sessions	Concurrent Sessions	Free Communication Sessions			
5.00 PM~6.00 PM		Dinner Symposium									
8.00 PM			Gala Dinner								

## (中)日本リウマチ学会の英文誌 (Modern Rheumatology) 投稿・発行規定 (2005年1月5日改訂)



(2005年15-1号からのMR新表紙)

### 目的と内容

Modern Rheumatologyはリウマチ学および病理学、生理学、臨床免疫学、微生物学、生化学、実験動物学、薬理学等の関連分野におけるオリジナル論文を英文で掲載する。

症例報告および広く読者に関心を持たれるテーマに関する綜説も受け付ける。また、内容が独創的かつ明快で、科学的価値の高い小論文も掲載を考慮する。

LetterはModern Rheumatologyの既掲載論文およびリウマチ学、有限責任中間法人日本リウマチ学会に関する事項に対するコメントに限る。速報は症例または研究上の知見に関するごく短い報告とし、抄録は付けない。

その他の記事も編集委員会の判断により掲載する。

論文は本学会の会員を問わず受け付ける。

年6号発行する。原稿は電子メールで、常時受け付ける。

### 投稿条件

著者は、提出論文の内容のいかなる部分も未出版であること(ただし、抄録の形式で、または出版物になった講義、解説記事、学位論文の一部は可とする)、また、他の出版物への掲載予定のないことを誓約しなければならない。他の著作物からの直接引用や図表を含めざるをえない場合には、それらの著者と著作権保持者からの英文での使用許可を提出論文に添付する。

提出論文が査読後受理された場合、その著作権を有限責任中間法人日本リウマチ学会とシュプリンガー・フェアラーク東京株に自動的に譲渡すること、また論文あるいはその一部が言語の如何を問わず、著作権保持者の許可なく他の出版物に掲載されないことを誓約する。

ヒトを対象とした人体調査は、投稿者の所属機関または地域の倫理審査委員会が人体実験について定める倫理規範、もしくはヘルシンキ宣言(1964年採択)とその改訂条項(1975年改正、2000年修正)の精神を遵守する。また全ての患者対し、インフォームド・コンセントを得ること、プライバシーの保護などに関する倫理的問題に十分配慮する。

動物実験における動物の取り扱いにおいても、投稿者の所属機関の倫理審査委員会が定める倫理規範、もしくは米国学術研究会議National Research Council(NRC)の規範「No. 86-23」(National Institute of Health 出版物)に従う。

利益相反 (Conflict of Interests) の恐れがある、いかなる金銭的・或いは個人的関係について情報公開する必要があり、論文投稿における謝辞の項目には、そのような関係をすべて宣言する。

論文の著者及び共著者は、投稿原稿が他で一切発表されていないことを誓約する文書を、全員署名の上、提出する。

### 原稿形式

原稿は英文で記述し、抄録、本文、謝辞、文献、図説、表を含めA4サイズにダブルスペースで作成する。各パートは改頁し、前記の順に原稿ナンバーをつける。

英文は英語を母国語とする研究者が読んで正確に理解できるものであること。校閲者から英文の改善を求められた場合は、英語を母国語とし関連分野に詳しい者の校閲を受けること。この場合、編集委員会が斡旋する人の校閲を受けることが出来る。ただし、その費用は著者負担とする。

標準的な略語や単位を使用する。略語は初出の際にスペルアウトする。略語は標題では使用しない。薬品や化学物質は一般名を使用する。

掲載論文の原稿は返却しない。

### 原稿枚数

原著および綜説は、30枚以内とする。(抄録、文献、図表を含む)

症例は、文献を含め20枚以内とする。(抄録、文献、図表を含む)

図表は1点につき原稿1枚と換算する。

刷り上りが16ページを越えた場合には、その費用を請求される。

Letterおよび速報は文献を含め4枚以内とし、抄録は付さない。

### 表紙

表紙には、論文の種類(原著、症例等)、標題、全著者名、著者の所属とその住所、本文枚数、図説、図表の点数を記載する。さらに、5語までのキーワード(アルファベット順に)、連絡先となる著者名や住所・電話番号・ファックス番号・e-mailアドレス、必要があれば編集委員会へのコメントを記載する。

### 抄録

原著は、目的、方法、結果、結論を200語以内で簡潔に記述する。

症例、綜説は各々75語、200語以内とする。

抄録中に小見出しは付けない。

### 本文

実験的な内容の論文については、Introduction, Materials

and Methods, Results, Discussionの構成で記述する。

#### 表

表は本文中で引用され、アラビア数字で出現順に番号を付ける。各表は個々に改頁し、簡潔な題をつける。表中で使われている主要な略語を表の脚注で説明する。

#### 図

図は本文中で引用され、アラビア数字で出現順に番号を付ける。各図には簡潔な図説を付ける。図説は本文の後に、図とは別に一括して記載する。

図はコラムの幅(8.6cm)または印刷領域(17.6×23.6cm)に合わせた大きさにする。組み合わせの図は、印刷領域を越えない範囲(図説も考慮する)でまとめる。その際図番号を明記する。

カラー図は受け付けるが、著者はその費用を請求される(カラーページ1ページ目¥110,000, 2ページ目以降は1ページ当たり¥60,000)。カラー図はカラー、白黒いずれでの印刷を希望するか表紙に記載する。

図や写真の電子画像送信も論文のオンライン審査用に受け付けるが、著者は掲載通知を受理後、各号に掲載されている出版社の電子投稿のスペックに従い、出版用の電子画像を提出する。

#### 〈線画〉

最終的に印刷を希望する大きさで鮮明であること。文字は明瞭で読みやすくする。

#### 〈ハーフトーン図(写真を含む)〉

適切なコントラストで、的確な角度と最終的な印刷サイズで提出する。

光学顕微鏡写真の場合、図説中に染色法を示す。電子顕微鏡写真は寸法を示すために写真中にバーを入れ、図説中でそのバーの数値と単位を示す。

#### 文 献

文献はアルファベット順ではなく、本文中での出現順に番号付ける。文献データは、著者の責任をもって、正確に記載する。

私信や未出版データは文献リストに含めるべきではないが、本文中に括弧付きで引用することができる。(例:A, Aoki 1999 personal communication)それが他者のものである場合は、直接の引用を認める著者の署名入り手紙を提出する。

他誌で掲載受理されていて未出版の論文は文献リストに含めることはできるが、括弧付きで“In press”と記載する。

文献リストには、引用該当ページおよび最初の6人までの著者名を、それを超える場合は“et al”を付す。雑誌名はIndex Medicusに準じる。日本語で書かれた論文は、例2の

形式による。文献は本文中では上付き文字で引用する:

〔例〕Ames et al. 1 reported...

#### 〈雑 誌〉

1. Ames PRJ, Lupoli S, Alves J, Atsumi T, Edwards C, Iannaccone L, et al. The coagulation/fibrinolysis balance in systemic sclerosis: evidence for hematological stress syndrome. *Br J Rheumatol* 1997; 36: 1045-50.

2. Kamihara S. Case of Sjogren syndrome associated with idiopathic monoclonal IgA rheumatoid factor and pyroglobulinemia (in Japanese). *Rinsho Ketsueki*. In press.

#### 〈単行本〉

3. Cassidy JT. Systemic lupus erythematosus, juvenile dermatomyositis, scleroderma, and vasculitis. In: Kelly WN, Harris ED Jr, Ruddy S, Sledge CB, editors. *Textbook of rheumatology*. 5th ed. Philadelphia: WB Saunders; 1997. p. 1241-64.

#### 〈Proceeding〉

4. Bengtsson S, Solheim BG. Enforcement of data protection, privacy and security in medical informatics. In: Lun KC, Degoulet P, Piemme TE, Rienhoff O, editors. *MEDINFO 92. Proceedings of the 7th World Congress on Medical Informatics*; 1992 Sep 6-10; Geneva, Switzerland. Amsterdam: North-Holland; 1992. p. 1561-5.

#### 別 刷

著者には別刷30部を無料で提供する。それ以上の部数が必要な場合には、100部までは50部単位で、100部以上は100部単位で注文を受け付ける。

#### 論文審査

提出された論文は、少なくとも2人のレフリーと編集委員により審査され、必要な場合には言語および内容について訂正を求める。編集委員は論文の採否および掲載順序を決定する。

著者は、論文の訂正と再提出を求められた場合、2ヵ月以内に応じられない場合は、掲載を辞退したものと見なされる。

#### 原稿送付先および問い合わせ先

〒105-0001 東京都港区虎ノ門1丁目1番24  
第1オカモトヤビル9階

有限責任中間法人 日本リウマチ学会

Modern Rheumatology編集委員会

Tel 03-5251-5353 Fax 03-5251-5354

Email: MR@ryumachi-jp.com

<http://www.ryumachi-jp.com/book/index.html>

### MR編集委員長からのお願い

有限責任中間法人日本リウマチ学会の英文誌Modern Rheumatology (MR)は、インパクトファクターをつけることを目指しています。紙媒体ではなかなか引用されにくい状況を考慮いたしまして、過去5年間に掲載されたMRへの論文abstractsを全て学会ホームページに掲載いたしました。

学会ホームページのトップページにある「会員のページ」をクリックして、「会員のページ(会員専用ページ)」に入ります。「学会誌・刊行物」をクリックしますと、「Modern Rheumatology」のバックナンバーの一覧と各年のkey-words indexとauthors index一覧をご覧いただけますので、論文を書く際は出来る限り、Modern Rheumatologyから引用していただくよう会員の皆様へお願い申し上げます。

Modern Rheumatology 編集委員長 三森経世



骨粗鬆症治療剤

薬価基準収載

**ボナロン<sup>®</sup>錠 5mg**

<アレンドロン酸ナトリウム 水和物 錠>

劇薬・指定医薬品・処方せん医薬品 (注意：医師等の処方せんにより使用すること)

※ 効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等については、添付文書をご参照ください。

商標 #1702/Bonalon<sup>®</sup> is the registered trademark of Merck & Co., Inc., Whitehouse Station, NJ, USA.

製造販売元

**TEIJIN** 帝人ファーマ株式会社

資料請求先：学術情報部  
〒100-8585 東京都千代田区千代田2-1-1

BNT027 (KK) 0504改4 2005年4月作成

# Santen



## Together

### 抗リウマチ剤

薬価基準収載

劇薬、指定医薬品、処方せん医薬品  
(注意—医師等の処方せんにより使用すること)

## メトレート錠2mg

Metolate<sup>®</sup> tablets 2mg

メトトレキサート錠

■〔効能・効果〕、〔用法・用量〕、〔警告、禁忌を含む使用上の注意〕等については、添付文書をご参照下さい。

### 抗リウマチ剤

薬価基準収載

劇薬、指定医薬品、処方せん医薬品  
(注意—医師等の処方せんにより使用すること)

## リマチル錠100mg

Rimatil<sup>®</sup> tablets 100mg

プシラミン100mg錠

劇薬、指定医薬品、処方せん医薬品  
(注意—医師等の処方せんにより使用すること)

## リマチル錠50mg

Rimatil<sup>®</sup> tablets 50mg

プシラミン50mg錠

■〔効能・効果〕、〔用法・用量〕、〔禁忌、原則禁忌を含む使用上の注意〕等については、添付文書をご参照下さい。

### 抗リウマチ剤

薬価基準収載

指定医薬品、処方せん医薬品  
(注意—医師等の処方せんにより使用すること)

## アザルフィジンEN錠

Azulfidine<sup>®</sup> EN tablets

サラゾスルファピリジジン500mg腸溶錠

指定医薬品、処方せん医薬品  
(注意—医師等の処方せんにより使用すること)

## アザルフィジンEN錠250mg

Azulfidine<sup>®</sup> EN tablets 250mg

サラゾスルファピリジジン250mg腸溶錠

■〔効能・効果〕、〔用法・用量〕、〔禁忌を含む使用上の注意〕等については、添付文書をご参照下さい。

製造販売元  
**S** 参天製薬株式会社  
大阪市東淀川区下新庄3-9-19  
資料請求先 医薬事業部 医薬情報室

発売  
**S** 参天製薬株式会社  
大阪市東淀川区下新庄3-9-19  
資料請求先 医薬事業部 医薬情報室

製造販売  
**Pfizer** ファイザー株式会社  
東京都渋谷区代々木3-22-7

2005年6月作成  
3MTL05FB5

# 関節リウマチ(小関節)の 腫脹・疼痛に

経皮複合消炎剤 **モビラート<sup>®</sup>** 軟膏



## 〔禁忌(次の患者には使用しないこと)〕

- (1) 出血性血液疾患(血友病、血小板減少症、紫斑病等)のある患者〔本剤に含まれるヘパリン類似物質は血液凝固抑制作用を有し、出血を助長するおそれがある〕
- (2) 僅少な出血でも重大な結果を来すことが予想される患者〔本剤に含まれるヘパリン類似物質は血液凝固抑制作用を有し、出血を助長するおそれがある〕
- (3) サリチル酸に対し過敏症の既往歴のある患者

## 〔効能・効果〕

変形性関節症(深部関節を除く)、関節リウマチによる小関節の腫脹・疼痛の緩解、筋・筋膜性腰痛、肩関節周囲炎、腱・腱鞘・腱周囲炎、外傷後の疼痛・腫脹・血腫

## 〔用法・用量〕

通常、1日1～数回適量を塗擦又はガーゼ等にのぼして貼付する。  
症状により密封法を行う。

## 〔使用上の注意〕

### 1. 副作用

総投与症例3133例中、24例(0.77%)に副作用が認められ、主なものは発赤7件(0.22%)、瘙癢7件(0.22%)、発疹7件(0.22%)、皮膚炎7件(0.22%)、皮膚刺激2件(0.06%)等であった。(再評価結果)

### その他の副作用

	0.1～5%未満	0.1%未満
過敏症 <sup>注)</sup>	発赤、瘙癢、発疹、皮膚炎	皮膚刺激等

注) 症状があらわれた場合には使用を中止すること。

### 2. 適用上の注意

投与部位：潰瘍、びらん面への直接塗擦を避けること。  
眼には使用しないこと。

## 〔包装〕

チューブ：10g×10、25g×10、25g×40、50g×10  
50g×40

●詳細は添付文書をご参照ください。

製造販売

**maruho** マルホ株式会社

〔資料請求先〕

大阪市北区中津1-5-22 〒531-0071

(2005.3作成)

血清中の抗ガラクトース欠損IgG抗体測定用医薬品

[検体検査実施料収載]

日本標準商品分類番号 877449

# ピコルミ<sup>®</sup> CA・RF

体外診断用医薬品

承認番号 21100AMZ00670000

〈電気化学発光免疫測定法—ECLIA法〉



## RAの早期診断補助に

### 【特性】

- 1 早期RA患者において、従来のリウマトイド因子(RF)測定法に比較し、優れた陽性率です。
- 2 従来のRF測定法で陰性のセロネガティブRA患者でも陽性率が高く有用です。
- 3 RA患者の症状改善、悪化に伴い従来法に比べて測定値が有意に変動します。
- 4 ピコルミCA・RFは自動測定が可能であり、広い測定レンジ(1~500AU/mL)を短い時間(反応時間約20分)で測定できます。
- 5 ピコルミCA・RFはエイテストCA・RF(EIA法)と良く相関します。

※効能・効果、操作法、使用上の注意については添付文書をご参照下さい。

製造販売元  **三光純薬株式会社**  
東京都千代田区岩本町1-10-6

販売提携  **エーザイ株式会社**  
東京都文京区小石川4-6-10  
<http://www.eisai.co.jp>

[検体検査実施料収載]

日本標準商品分類番号 877449

体外診断用医薬品

承認番号 21100AMZ00542000

# 間質性肺炎に特異性の高い 血清マーカー

## KL-6

血清中シアル化糖鎖抗原KL-6測定用医薬品

# ピコルミ<sup>®</sup> KL-6 Picolumi<sup>®</sup> KL-6

〈電気化学発光免疫測定法〉




### 特性

1. 間質性肺炎に特異性が高く、他疾患との鑑別診断に優れます。
2. 活動性の間質性肺炎では、非活動性に比べ高値に分布します。
3. 間質性肺炎の症状改善、悪化に伴い有意に測定値が変動します。
4. ピコルミKL-6は自動測定が可能であり、1回の測定で広い測定レンジ(51~10200U/mL)を短い時間(反応時間約20分)で測定できます。
5. ピコルミKL-6は、エイテストKL-6(EIA法)と良く相関します。

※効能・効果、操作法、使用上の注意については添付文書をご参照下さい。

製造発売元  **三光純薬株式会社**  
東京都千代田区岩本町1-10-6

提携  **エーザイ株式会社**  
東京都文京区小石川4-6-10

資料請求先：三光純薬株式会社 薬事学術部 〒101-0032 東京都千代田区岩本町1-10-6 エーザイ株式会社 診断薬部 〒112-8088 東京都文京区小石川5-5-5

2001年1月作成  
KL01.01-1



## 持続性抗炎症・鎮痛剤 《ナブメトン錠》

指定医薬品  
**レリフェン<sup>®</sup>錠**  
RELIFEN RELIFEN<sup>®</sup>400 薬価基準収載

※効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意につきましては添付文書をご参照ください。

製造販売元  
**株式会社 三和化学研究所**  
S K K  
本社/名古屋市東区東外堀町35番地 〒461-8631  
●ホームページ <http://www.skk-net.com/>  
提携 **グラクソ・スミスクライン株式会社**

資料請求先・問い合わせ先  
コンタクトセンター  
**☎0120-19-8130**  
受付時間 月～金 9:00～17:00(祝日は除く)

2003年7月作成



過敏性腸症候群治療剤 薬価基準収載

**ポリフル<sup>®</sup>錠500mg**  
細粒

〈ポリカルボフィルカルシウム製剤〉指定医薬品

消化管運動賦活剤

薬価基準収載

**ガナトン<sup>®</sup>錠50mg**

〈塩酸イトプリド錠〉指定医薬品

各製品の「効能・効果」、「用法・用量」、禁忌を含む「使用上の注意」等については各添付文書をご参照ください。

**アボット ジャパン株式会社**

製造販売元 千葉県松戸市松飛台278  
発売元 大阪市中央区城見2-2-53

〔資料請求先〕  
アボット ジャパン株式会社 くすり相談室  
〒540-0001 大阪市中央区城見2-2-53  
TEL (06) 6942-2065

2005年8月作成

- **巻頭言**  
分子標的創薬の限界……………鎌谷 直之… 1
- **第50回(中)日本リウマチ学会総会・学術集会**  
第15回国際リウマチシンポジウム……………江口 勝美…2～5
- **コラム**  
リウマチ学と骨免疫学……………高柳 広… 6
- **INFORMATION**……………7～11  
都道府県別会員数等一覧表／(中)日本リウマチ学会支部学術集会／  
指導医・専門医の認定更新に関するお知らせ／2005年度(中)日本リウ  
マチ学会「教育施設」
- **委員会だより**……………12～13  
2005年度第2回理事会報告／情報化委員会報告／MR編集委員会報告  
教育施設認定委員会報告／JCR国際委員会報告／将来構想委員会報告  
専門医制度委員会報告／エタネルセプトPMS委員会報告
- **各支部だより** 関東支部／九州・沖縄支部……………14～15
- **ILAR理事会報告**……………西岡 久寿樹…16
- **EULAR大会参加報告**……………天野 宏一／宇月 美和…16～17
- **海外留学中の会員だより**……………圓尾 圭美…18
- **(中)日本リウマチ学会が認定した教育研修会又は講演会**……………20～26
- **APLAR2006のご案内**……………27
- **英文学会誌 Modern Rheumatology (MR) 投稿・発行規定**……………28～29  
MR編集委員長からのお願い 三森 経世
- **目次・奥付**……………36

## (中)日本リウマチ学会ホームページ 「会員専用ページ」のご案内

学会ホームページの「会員専用ページ」よりニュースレターのバックナンバーをはじめ会員向けの情報をご覧いただけます。(正会員のみ)

なお、初めて「会員専用ページ」にログインするには、まずパスワードの登録が必要です。ホームページの記述に従いパスワードの登録を行なってください。

URL: <http://www.ryumachi-jp.com/>



- **情報化委員会** 担当理事：澤井高志  
(順不同) ニュースレター小委員長：天野宏一／委員：諏訪 昭・田中真希・中島亜矢子

**ニュースレター** 2005年・第7号 発行日2005年9月15日  
**発行者** 有限責任中間法人 日本リウマチ学会  
〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-1-24 オカモトヤビル9F  
TEL.03-5251-5353 FAX.03-5251-5354  
E-mail gakkaim@ryumachi-jp.com URL <http://www.ryumachi-jp.com>  
**デザイン・制作** クリエイトM2 〒101-0065 東京都千代田区西神田2-7-5  
TEL.03-5215-6560 FAX.03-5215-6560 E-mail creat-m2@sea.plala.or.jp  
**印刷社** 山下印刷(有) 〒105-0003 東京都港区西新橋1-21-4  
TEL.03-3591-1025 FAX.03-3591-0846

全例調査(承認条件)

新発売



完全ヒト型可溶性TNF $\alpha$ /LT $\alpha$ レセプター製剤 薬価基準収載

**エンブレル<sup>®</sup>皮下注用25mg**

ENBREL<sup>®</sup> 25mg for S.C. Injection エタネルセプト(遺伝子組換え)製剤

生物由来製品 創薬 指定医薬品 処方せん医薬品<sup>注)</sup> 注)注意—医師等の処方せんにより使用すること

**注意** 効能・効果、用法・用量、警告・禁忌を含む使用上の注意等については、添付文書をご参照ください。

Wyeth

製造販売元  
ワイズ株式会社  
〒104-0031 東京都中央区京橋一丁目10番3号  
<http://www.wyeth.jp/>

販売  
武田薬品工業株式会社  
〒540-8645 大阪市中央区道修町四丁目1番1号  
<http://www.takeda.co.jp/>

資料請求先:ワイズ株式会社 ワイスくすりの情報室 〒104-0031 東京都中央区京橋一丁目10番3号

2005年5月作成

# REMICADE



抗ヒトTNF $\alpha$ モノクローナル抗体製剤

薬価基準収載

## レミケード®点滴静注用100

### REMICADE® for I.V. Infusion100

インフリキシマブ(遺伝子組換え)製剤

生物由来製品 劇薬 指定医薬品 処方せん医薬品 (注意-医師等の処方せんにより使用すること)

※ 効能・効果、用法・用量、警告・禁忌を含む使用上の注意等については、添付文書をご参照ください。



輸入販売元(資料請求先)

**田辺製薬株式会社**

〒541-8505 大阪市中央区道修町3丁目2番10号  
<http://www.tanabe.co.jp/>



製造元

**Centocor**

マルバーン/ペンシルバニア州(アメリカ)

2005年4月作成